

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

平成29年11月6日

9:00～11:00

久留米市庁舎308会議室

次 第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題1 教員の多忙化解消に向けた業務改善の取組
- 4 議題2 久留米市の特別支援教育について
- 5 議題3 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について
- 6 その他
- 7 閉会

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

議題1

教員の多忙化解消に向けた業務改善の取組

平成29年11月6日

教員の多忙化解消に向けた業務改善の取組(案)

1. 第 1 回総合教育会議でいただいたご意見

- ① これまでも要望していただいているが、教員の正規率のさらなる向上を図る必要がある。
- ② 熱心で意識の高い教員ほど、勤務時間が長くなる傾向があるのではないかと。多忙化解消の業務改善の取組を進める上では、そのような教員のモチベーションを低下させないような仕組みや仕掛けを講じていただきたい（モチベーションは一度下がるとなかなか上がらないので）。
- ③ まずは、事務の効率化から着手することが大事だと考える。
- ④ 意識改革が大変重要であるが、言葉だけでは実現しないので、そのために何をするのかを具体化してほしい。例えば、効率化できたことについて肯定的に評価する仕組みがあるとよい。
- ⑤ 部活動が多忙化に影響を及ぼしているのであれば、そのあり方を検討する必要がある。
- ⑥ 子どもたちにいい教育を提供するために教員が教材研究や授業に専念できる環境をどのように整備するのが大切である。そのためにも、多忙化の中味をさらに分析して、事務作業を外注するなど教員を支える仕組みづくりを行ってほしい。
- ⑦ 教員間の力量や業務量の差に配慮した仕組みづくりを考えてほしい。

2. 学校における働き方改革に係る緊急提言(中央教育審議会特別部会 H29.8.29)

(1) 緊急提言の背景

- 新学習指導要領を確実に実施するためには、教員が授業や授業準備等に集中し、健康でいきいきとやりがいをもって勤務できる環境の構築が必要である。
- しかし、教員勤務実態調査から、教職員の長時間勤務の実態が看過できない状況であり、学校教育の根幹が揺らぎつつある現実を重く受け止め「学校における働き方改革」を早急に進めていく必要がある。
- その推進にあたっては、教職員一人一人の問題にとどめることは決してあってはならず、国や地方公共団体、家庭、地域等を含めた全ての関係者がそれぞれの課題意識に基づいて、取組を直ちに実行しなければならない。
- 「今できることは直ちに行う」という認識を教育に携わる全ての関係者が共有するとともに、必ず解決するという強い意識を持って、それぞれの立場から取組を実行し、教職員がその効果を確実に実感できるようにするため、緊急提言をまとめたものである。

(2) 緊急提言の内容

① 校長及び教育委員会は学校において「勤務時間」を意識した働き方を進めること

- 無制限無定量の勤務を是とするのではなく、限られた時間の中で最大限の効果を上げられるような働き方を進める必要がある。
- 校長や服務監督権者である教育委員会は、教職員の意識改革を図るためにも、以下の取組を一層進めるべきである。
 - ア 業務改善を進めていく基礎として、適切な手段により管理職も含めた全ての教職員の勤務時間を把握すること。
 - ・タイムカードの使用・・・小学校 10.3%、中学校 13.3%
 - ・ICTの活用・・・小学校 16.6%、中学校 13.3%
 - ・自己申告方式ではなく、ICTやタイムカードなど勤務時間を客観的に把握し、集計するシステムの構築
 - イ 教職員の休憩時間を確保した上で、諸会議や部活動等について勤務時間を考慮した時間設定を行うこと。
 - ・勤務時間外の保護者等からの問い合わせに対応するための留守番電話の設置
 - ・部活動の適切な活動時間の設定や部活動指導員の活用
 - ウ 管理職の役割分担を明確にするとともに、マネジメント研修を充実し、意識改革と実践力の向上を図る。

② 全ての教育関係者が学校・教職員の業務改善の取組を強く推進していくこと

- 学校の業務が多岐にわたり業務負担が増大している中で、今後、学校の業務の範囲の明確化を行い、教職員が本来業務に集中できるような体制の検討を進める。
- 特に、以下の取組については、国及び地方公共団体において改めて積極的に進めていくべきである。
 - ア 教育委員会は強い危機感を持ち、早急に所管する学校に対する時間外勤務の削減に向けた業務改善方針・計画を策定すること。
 - ・業務改善方針・計画等の策定・・・都道府県 85.1%、政令市 55.0%、市区町村 7.6%
 - イ 統合型校務支援システムの導入促進を図り、業務の電子化による効率化を図るとともに、ICTを活用した教材の共有化を積極的に進めること。
 - ウ 学校に対する調査だけでなく、依頼・指示等について整理・把握し、その精選及び合理化・適正化を進めること。
 - エ 給食費の公会計化を進めるとともに、学校徴収金の未納金の督促等、教員の業務としないよう直ちに改善に努めること。
 - オ 本年4月に学校教育法等が一部改正され、事務職員の服務規定が見直された趣旨を踏まえ、事務職員を活用することで事務機能の強化や業務改善の取組を推進するよう努めること。

③ 国として持続可能な勤務環境整備のための支援を充実させること

※ 内容は省略

3. 文部科学省の概算要求の内容

(1) 「教員の働き方改革」関連の教員定数改善

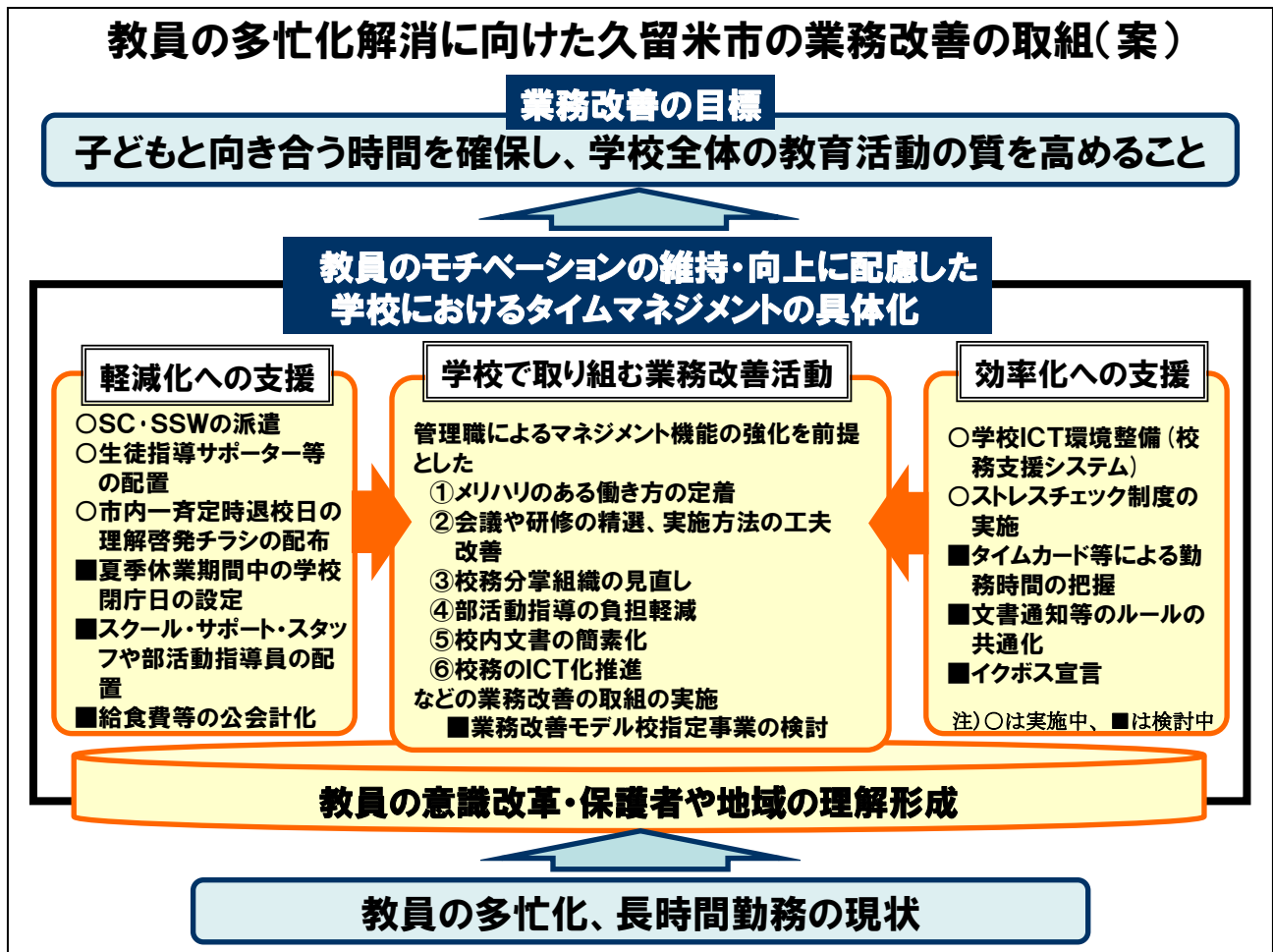
- 小学校専科指導に必要な教員の充実（2200人）
- 中学校における生徒指導体制の強化に必要な教員の充実（500人）
- 学校総務・財務業務の軽減のための共同学校事務体制の強化（事務職員400人）
- 主幹教諭の配置充実による学校マネジメント機能強化（100人）

(2) 「教員の働き方改革」関連

- 補習等のための指導員等派遣事業の拡充（5億円増の51億円）
 - ・プリントの印刷や授業準備、採点の補助など教員の支援にあたる「スクール・サポート・スタッフ」（新規に15億円、3600人の配置を目指す）
 - ※H29の全国の公立小学校数は19,794校、3600人を均等割したら5.5校、久留米市46小学校に当てはめると、8人程度の配置となる。
 - ・部活動指導員配置促進事業（新規に15億円、4年間で公立中学校1校当たり3人程度の指導員の配置を目指す）
- SCやSSWの配置拡充（SCについて2億円増の48億円で、公立全小中学校への配置を目指す）
- 貧困・虐待対策のための重点加配（1000校）
- 生徒指導上の大きな課題を抱える公立中学校での週5日相談体制の整備（200校）
- 弁護士が専門知識を生かして学校でのいじめ予防教育や法的相談にあたる「スクールロイヤー」活用の調査研究（5300万円に増額し10地域で実施）
- 学校給食費徴収・管理業務の改善・充実（新規で4700万円、学校給食費の徴収・管理業務に関するガイドラインを作成）
- 学校現場における業務改善加速事業（1億円増の3億円で、30カ所のモデル地域での実践研究や業務改善アドバイザーの派遣）

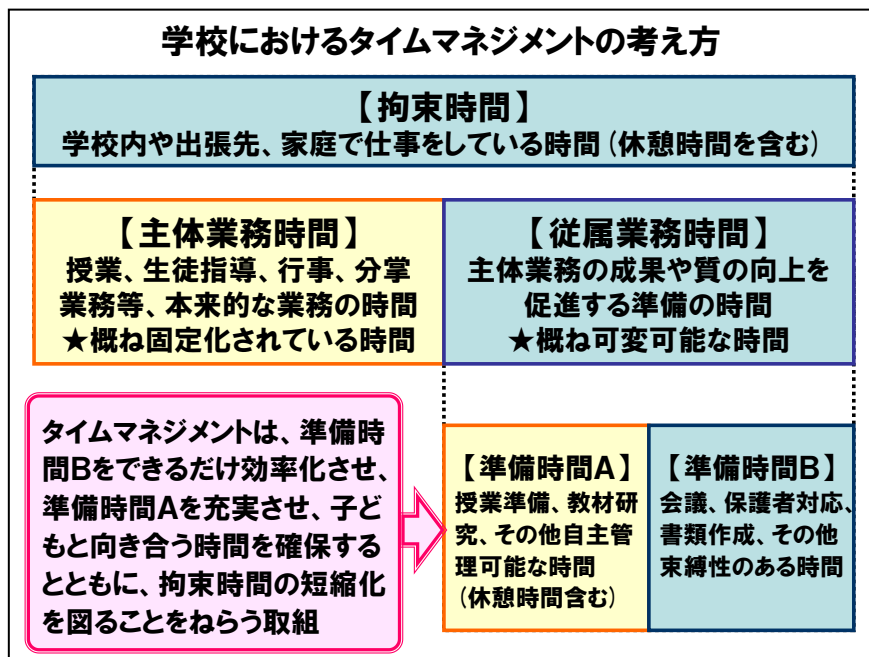
4. 今後の対応

(1) 教員の多忙化解消に向けた業務改善の取組の基本的な考え方



- 久留米市の学校における教員の多忙化解消に向けた業務改善は、「授業や授業準備等、教員が本来専念すべき業務である子どもと向き合う時間を確保し、学校全体の教育活動の質を高めること」を目標に取り組むものである。
- その取組においては、一人一人の教員のモチベーションの維持や向上に配慮しつつ、次ページの図1に示すような学校におけるタイムマネジメントの具体化に努めたい。
- 具体的には、市教育委員会による効率化や軽減化への支援を受け、各学校で取り組む業務改善活動について、管理職によるマネジメント機能の強化を前提とした①～⑥の取組を実効性あるものとして展開したい。
- その際、次ページの図2に示すような、教員のモチベーションに配慮したマネジメントが推進されるよう留意する。
- 同時に、限られた時間の中で最大限の効果を上げられるような働き方を目指すための教員の意識改革の取組や、教員の多忙化の現状についての保護者や地域住民の理解形成に基づく業務改善の取組への賛同や協力を得る取組についても、進めなければならない。

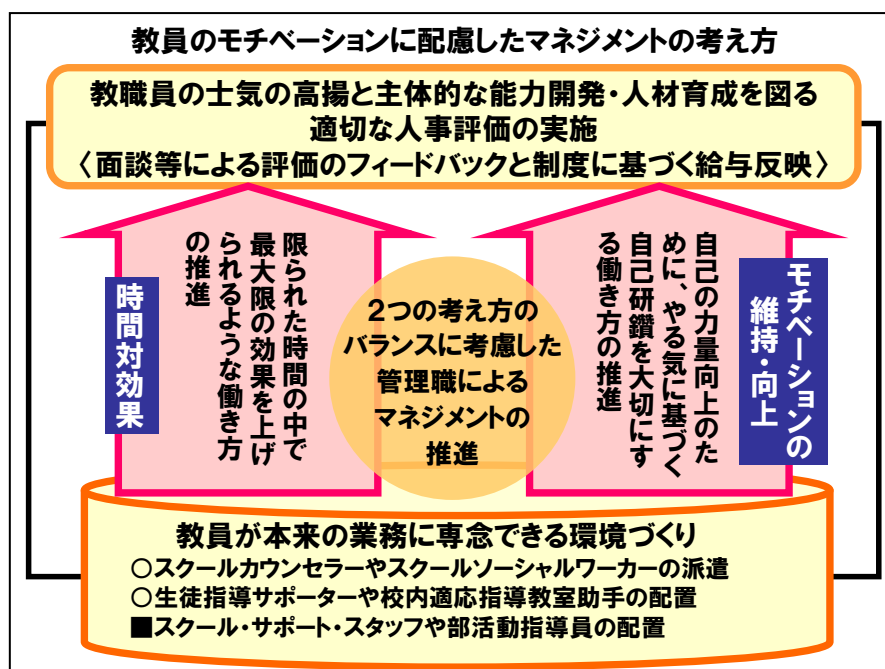
【図1:学校におけるタイムマネジメント】



〈参考〉南薫小学校におけるモデル事業の主な成果

- ①学校行事について、4つの行事を廃止（学年行事も含む）し、2つの行事の実施時期を変更することで、多忙感の偏りを軽減した。【主体業務時間の効率化】
- ②会議の終了時刻の明確化資料の事前配付等により、会議時間が平均60分から45分に短縮した。【準備時間Bの効率化による準備時間Aの充実】
- ③放課後の週時程の見直しを行い、担任裁量で使える時間を週あたり50分×1日から50分×2日にした。【準備時間Bの効率化による準備時間Aの充実】
- ④早く帰るべきという意識が定着してきたこと、際限なしに教材研究を行うことがなくなってきたことなど、時間対効果の意識が芽生えてきた。

【図2:教員のモチベーションに配慮したマネジメント】



(2) 教員の多忙化解消に向けた業務改善の具体的な取組の方向性

① 取組の方向性

久留米市はこれまで、教育相談体制の充実や生徒指導上の諸問題解決のため、教育相談に対応するスクールカウンセラーや関係機関との連携を支援するスクールソーシャルワーカーの派遣、不登校傾向の児童生徒への支援を行う小学校の生徒指導サポーターや中学校の校内適応指導教室助手の配置等に取り組んできた。

このような専門職の配置は、結果的に、教員が授業や授業準備等の本来の業務に専念できるための環境づくりにもつながるものであり、学校における業務改善を考える上でも大変重要なことである。

また、本年度から、学校ICT環境整備・活用により、校務支援システムの構築や教材や実践の共有化などによる業務の効率化に向けた取組も進めている。

さらに、本年9月には、保護者等に向けた理解啓発チラシの配布による市内一斉定時退校日の取組の強化にも新たに取り組んだところである。

以上のような取組を受けて、今後については、次の2点から検討を行う必要があると考えている。

ア これまでの取組について、学校における業務改善の視点から効果の検証を行う。

イ 中央教育審議会の緊急提言や次年度の国の事業予算等を見極めつつ、今後考えられる新たな取組についての調査研究を行う。

② 今後考えられる新たな取組の例

ア タイムカードの導入

- 自己申告方式である現在の勤務実態報告書入力システムの限界
- 勤務時間を客観的に把握し、集計できるシステムの構築

イ 夏季休業期間中(お盆時期)の学校閉庁日の取組

- 教職員がお盆期間等に一斉に年休等を取得することにより学校閉庁する取組。
- 計画的な年休取得を推進。

ウ 給食費等の公会計化

- 学校給食費等の徴収・管理業務を学校から自治体に移管する取組。
- 自治体の徴収・管理システムの導入や実施体制等が課題。

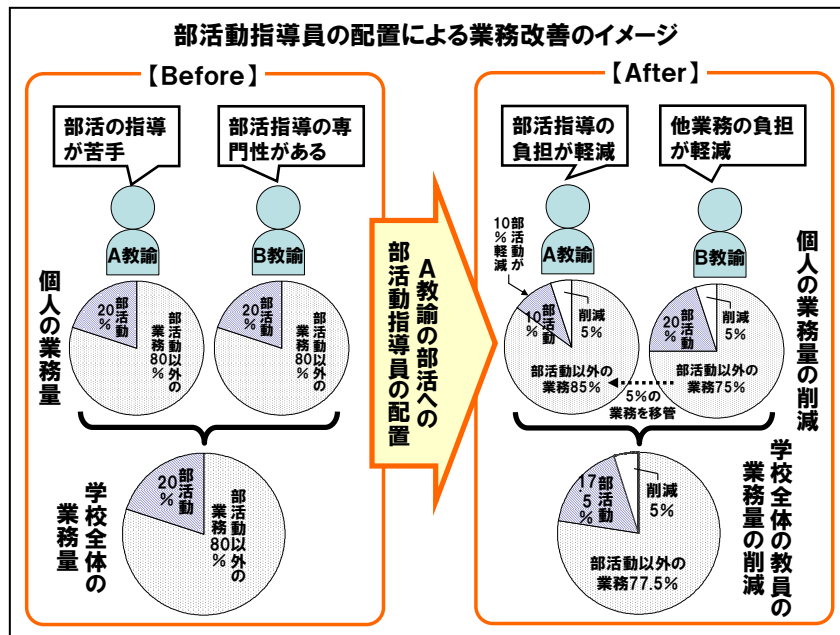
エ 市教育委員会各課からの通知文書等の精選と通知方法等の一貫性の確保

- 学校が負担を感じているものの一つである教育委員会からの調査物等について、調査そのものの必要性や調査内容の重なり、調査方法の一貫性について精査し、調査物等の削減を図る取組。

オ イクボス宣言(平成29年度に福岡県庁及び教育庁の管理職が実施)

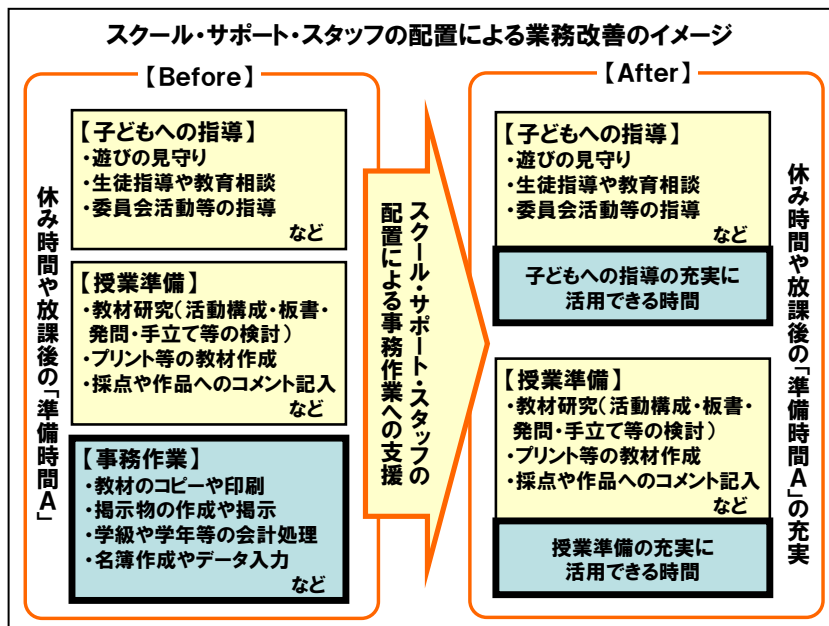
- 管理職自らが、ワーク・ライフ・バランスを大切にしたい職場づくりを推進する考え

方を宣言する取組
カ 部活動指導員の配置



- 教員に代わって部活動の指導や対外試合への引率等を行うことができる部活動指導員を配置する取組（北九州市の場合は市非常勤嘱託員として15人を雇用、報酬は1,070円/時間）。
- 学校のニーズにマッチした配置ができれば、教員の負担軽減上の効果は高い。
- 学校のニーズにマッチした人材の確保が課題。

キ スクール・サポート・スタッフの配置



- プリントの印刷やデータの入力等の事務作業を支援するスクール・サポート・スタッフを配置する取組。
- 子どもと向き合う時間の確保や退勤時間が平均30分程度早くなるなどの効果。
- 各教員がスクール・サポート・スタッフへの業務依頼を見通しをもって行うなど、効

率的な業務遂行の意識が生まれた。

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

議題2

久留米市の特別支援教育について

平成29年11月6日

久留米市の特別支援教育について（案）

1 第1回総合教育会議について

第1回会議では、特別支援教育の仕組みや児童生徒の増加傾向等を明らかにし、多岐にわたる久留米市の特別支援教育施策を示した。

そして、今後も対象者が増加することを見込み、「教職員の能力向上」「相談体制の構築」「医療的ケアの体制整備」「特別支援学校等の施設整備」を方向性に掲げたところである。

2 第2回総合教育会議について

第2回会議では、次の事項に関して報告し、認識の共有を図りたいと考えている。

- ① 中核市と久留米市の状況を比較し、本市の特別支援教育に必要な事項を明らかにする。
- ② 医療的ケア児の課題に「居住地校への就学」と「通学支援」がある。今年度に居住地校への就学に関して広島市を視察したので、通学支援に関する先進自治体の状況と併せて報告する。

3 中核市における特別支援教育の状況

中核市における特別支援学級、通級指導教室の児童生徒数の状況は、**資料1～2**のとおりであり、久留米市では次のような特徴等が見られる。

- ① 久留米市は、特別支援学級の児童生徒の割合で、中核市43市中9位であり、平均を0.64ポイント上回る。通級指導教室では、中核市43市中18位であり、全体平均を若干下回る。
- ② 直近5年間の推移に関し、特別支援学級の伸びは、久留米市が中核市を上回るが、通級指導教室の伸びは、久留米市が中核市を下回る。

特別支援学級の在籍者数の推移

		H25	H26	H27	H28	H29	増減
小学校	久留米市	320	361	385	479	578	+258人 1.81倍
	中核市	15,344	16,559	18,328	20,471	22,776	+7,432人 1.48倍
中学校	久留米市	107	115	136	140	173	+66人 1.62倍
	中核市	6,757	7,194	7,768	8,208	8,789	+2,032人 1.30倍

* 数値は平成29年度時点のもの。ただし、函館市・豊中市・姫路市・尼崎市・西宮市を除く。

通級指導教室の在籍者数の推移

		H25	H26	H27	H28	H29	増減
小学校	久留米市	156	143	195	200	202	+46 1.29倍
	中核市	8,012	8,568	9,345	9,941	10,765	+2,753 1.34倍
中学校	久留米市	21	24	24	22	21	0 1.00倍
	中核市	859	1,053	1,239	1,329	1,460	+601 1.70倍

- ③ 特別支援教育を受ける児童生徒の増加は、障害の程度が比較的軽い子どもと保護者にとって、特性に応じた少人数の教育が行われるため、将来の自立と社会参加を見据え、就学を志向することが要因であると考えます。

また、久留米市では、特別支援教育に関する理解の浸透、専門機関や学校等による積極的な認知姿勢が表れていると考えます。

- ④ 一方で、人材確保やハード整備が逼迫しているため、教職員の障害に対する理解を向上させ、通常の学級における受容力を高めることが必要であり、指導主事による指導や研修体制の充実が求められる。

4 医療的ケア児の就学

(1) 就学の基本的な考え方

障害を有する子どもの就学決定については、平成25年8月に学校教育法施行令が改正され、大幅な転換が図られている。

従前 就学基準を満たす場合は、特別支援学校への就学を原則とし、例外的に小・中学校への就学が可能

改正後 個々の障害の状態を踏まえ、総合的な観点から就学先を決定。その際、本人や保護者の意向を可能な限り尊重しながら合意形成を図る。

(2) 広島市の状況

障害の程度が重い医療的ケア児が居住地校に通学している事例として、本年度に広島市を視察したが、その概要は次のとおりである。

① 看護師の配置

広島市は、28年度より看護師を直接雇用し、医療的ケア児が就学する学校に常時配置している。看護師の確保には、医療機関に勤務する看護師との待遇差もあり困難を伴っている。

② 居住地校への就学について

障害者差別解消法による合理的配慮を踏まえた対応であり、国が平成28年度から居住地校への看護師配置の補助制度を創設したことも後押しとなった。

③ 学校での対応について

当該児童に対応した危機管理マニュアルを作成し、月に1度の緊急訓練を行っている。また、授業内容に応じた個別の配慮や校外活動の事前準備など、学校総体としての対応が求められている。

(3) 久留米市の状況と課題

久留米市では、居住地校に4人（小学生3・中学生1）が在籍し、痰の吸引や導尿の医療的ケアを受けながら就学している。

この医療的ケアについては、学校訪問看護支援事業で、保護者が利用した看護師費用のうち年間53万9千円を上限に補助している。しかし、学校の年間約200日のうち約51回分の利用にとどまるため、残りは保護者による対応や看護師費用の自己負担となっている。

(4) 今後について

インクルーシブ教育システムが進められる中、保護者や子どもが特別支援学校ではなく居住地校を志望するのは、子どもにとって最適な学びはどこかという視点等に基づくこととなる。

そのため、居住地校への就学に当たっては、保護者負担を前提とするのではなく、合理的配慮に基づく負担解消を図るという流れにある。学校体制の整備など大きな課題もあるが、先進自治体の状況等も踏まえて研究するとともに、当面の保護者負担の軽減を検討する必要がある。

5 医療的ケア児の通学支援

(1) 通学の現状と課題

特別支援学校の医療的ケア児は、文部科学省の通知も踏まえ、安全確保の視点からスクールバスの利用ができず、保護者が送迎している。そのため、保護者が急病などで送迎できない場合は、子どもが登校できないという状況にある。

医療的ケア児の保護者は、常時の介護で疲弊していることも珍しくなく、就労が困難な場合も多い。そこで、一部自治体では、通学支援による保護者負担の軽減と子どもの教育機会の確保を図っている。

(2) 中核市等の状況

市立の特別支援学校を設置している中核市の状況は**資料3**のとおりであり、先進自治体の状況は、次のとおりである。

	大阪市	神戸市	滋賀県
開始時期	H27	S52	H26（実証研究中）
内容	主治医が認めた場合に看護師同乗のタクシーで登下校 ・利用者数 27 人 ・利用限度 120 日（240 回）	保護者が免許不保持又は病気の児童生徒に対し、保護者か保護者が頼んだヘルパーの同乗を条件にタクシー通学 ・利用者実績 22 人/日	協力市町の障害者福祉サービスの移動車両（タクシーではない）に看護師同乗 ・利用実績 12 人（10 回まで）
自己負担	なし	なし	実費の1割（数百円/回）

(3) 今後について

通学支援は、制度の位置付けや支援内容、財源など、先進自治体の状況や関係者の意見等も踏まえて研究を進める必要がある。なお、スクールバスの利用は、文部科学省の通知も踏まえ、恒常的に医療的ケアの必要がない子どもの利用を可能にする方向で検討したい。

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

議題3

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成29年11月6日

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について（案）

1 学力調査について

(1) 平均正答率

単位 %		国語A	国語B	算数A	算数B
小学校	久留米市	75	57	78	45
	福岡県	76	58	79	46
	全国	74.8	57.5	78.6	45.9
単位 %		国語A	国語B	数学A	数学B
中学校	久留米市	75	70	61	45
	福岡県	77	71	63	46
	全国	77.4	72.2	64.6	48.1

注1 Aは知識に関する問題、Bは知識の活用力を問う問題である。

注2 数値は平均正答率（問題数に占める正答数の割合）で、文部科学省から都道府県及び市町村に対する結果の提供は、今年度より整数一の位までとなっている。

(2) 平均正答率の推移【資料1～2】

小学校は、国語Aで全国平均を上回り、算数Aも昨年度より全国との差を縮めた。国語Bと算数Bは、全国との差は開いたが、4区分とも1ポイント以内に収まるなど、全国レベルに近付いている。

中学校は、4区分で全国平均を下回ったが、全国との差は縮小傾向にある。

(3) 正答数別の分布状況【資料3】

全体の正答率の引上げのためには、学力下位層をどれだけ中位層に押し上げるかが重要になっている。

(4) 同じ学年の児童生徒の学力変化【資料4】

同じ学年の児童生徒において、26年度に小6で受けた全国学力・学習状況調査と29年度に中3で受けた同調査の結果は、別紙のとおりである。

また、28年度に小5・中2で受けた県学力調査と29年度の全国学力・学習状況調査の結果は、別紙のとおりである。

2 児童生徒質問紙による調査について

全国学力・学習状況調査において行われた児童生徒質問紙（学習や生活状況等を尋ねるもの）による調査の主な結果は、別紙資料のとおりである。[資料5～9]

3 学力向上に向けた取組

(1) 基本的な考え方

平成28年度は、総合教育会議と並行して、全国学力・学習状況調査の結果が全国トップクラスの秋田県と福井県を視察した。

その結果、特筆すべき独自施策は見られなかったが、「各学校の取組における計画性と徹底度」「教育委員会の指導主事による学校との関わり」に差があることが浮き彫りとなった。

そこで、総合教育会議での意見等を踏まえ、「授業力の向上」という基本事項を中心軸に据え、次に掲げるような方向性のもと、具体的な取組を実施している。

(2) 具体的な取組

方向性1

各学校の学力向上コーディネーターが全国学力・学習状況調査等の結果分析を行い、次年度に向けた具体的な取組計画表を作成・実施する。

各学校で作成した取組計画表に基づき、教育委員会が各学校の学力向上コーディネーターと直接ヒアリングを行った。[資料10参照]

ヒアリングでは、「学力低位層に対応した補充学習の実施」「日々の学習と関連付けた過去問題の活用」「宿題のシステム化」「既習の学習内容の復習」等について、具体的に指導した。

学力向上コーディネーターを核とする計画の立案と実践の徹底を目的に、今後も実施するものとする。

方向性2

教育委員会の指導主事が担当する学校に定期的・計画的に入り、わかる授業づくりの実践による学力向上への支援を行う。

これまで、教育委員会の管理職を中心として、校長の学校経営への指導助言を行う「学校訪問」と、校内研修等への指導主事の派遣を行っているが、授業力の向上に特化した訪問は行っていなかった。

そこで、今年度より学習指導訪問を開始し、指導主事が実際の授業を見て、授業改善の指導助言を行うことにした。(今年度は中学校5校と小学校21校に対し、のべ80人以上の指導主事を派遣する。)

指導主事等が3人1チームの少人数で訪問することによって、機動的に学校を訪問することができる。

方向性3

各学校の学力実態と教育環境に応じ、地域学校協議会と連携した学習支援の取組を実施する。

各学校が地域学校協議会と全国学力・学習状況調査の結果を共有し、児童生徒の学力に関心を寄せる地域の土壌づくりを図る。また、学校・家庭・地域が連携し、学力の保障と向上、基本的な生活習慣の確立に向けた活動を行っている。

28年度は、放課後学習会の開催など学力の保障と向上に関する取組や、スマートフォンやゲーム利用のルール作りなどノーメディアの取組等が行われている。

方向性4

授業だけでは十分に学力が定着できていない児童生徒に対する指導体制の充実を図る。

非常勤講師を活用した学力向上コーディネーターの専任化、小学校3～4年生における少人数授業の実施、学習ボランティアの確保などに取り組んでいるが、人材確保が課題となっている。

そのため、教員免許保有者に限らない多様な能力を持った人材を活用し、チーム学校としての体制を構築することによって、教職員の学習指導に対する時間の確保を図る。

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

資料集

議題1

教員の多忙化解消に向けた業務改善の取組

平成29年11月6日

市内一斉定時退校日の取組強化の実施状況

1. 市内一斉定時退校日の取組の強化

(1) これまでの取組について

教員の超過勤務縮減策の一環として、平成 25 年度から、小学校は毎月第 2 水曜日、中学校は毎月第 3 月曜日を市内一斉定時退校日として設定した。

(2) 取組の強化について

久留米市教育委員会、小中学校 P T A 連合協議会、小中学校長会の連名で市内一斉定時退校日の取組への理解と協力を依頼するチラシを配布するとともに、これまで月 1 回であった市内一斉定時退校日を月 2 回で設定した。

平成 29 年 8 月末にチラシ配布を行い、第 2 学期から取組を開始した。

○小・特別支援学校：第 2・第 4 金曜日

○中学校：第 1・第 3 月曜日

2. 取組の強化の実施状況調査

(1) 調査期日

平成 29 年 10 月 23 日～30 日

(2) 調査内容

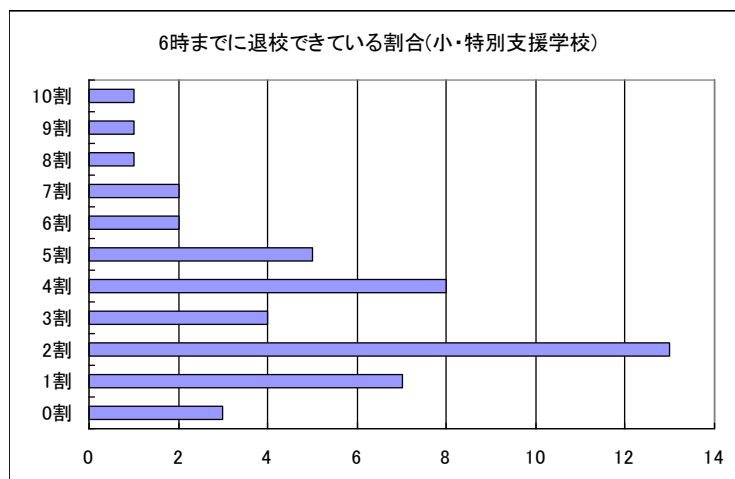
- ① 退校時刻
- ② 午後 7 時までに退校できない理由
- ③ チラシ配布後に学校に寄せられた質問や意見等

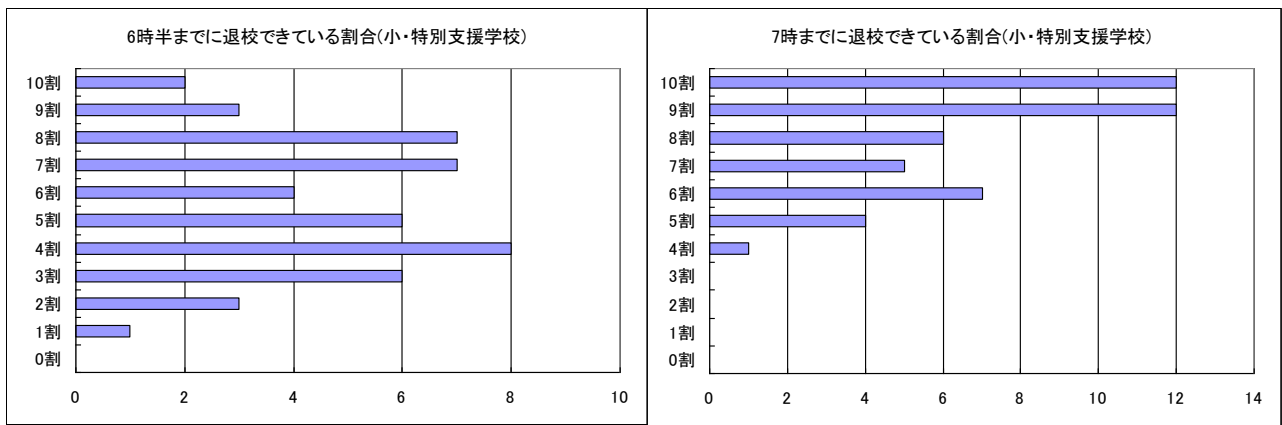
3. 調査結果

(1) 退校時刻

① 小・特別支援学校

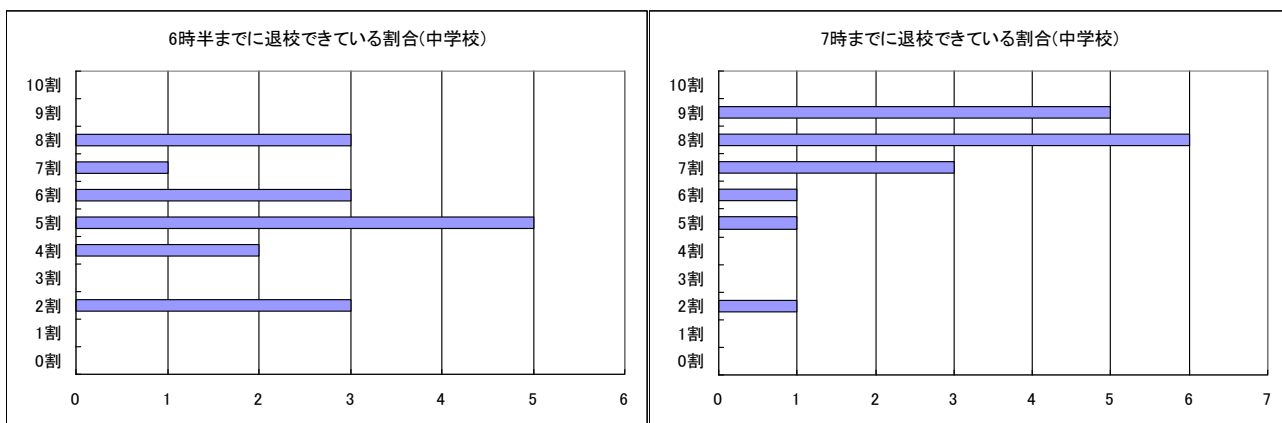
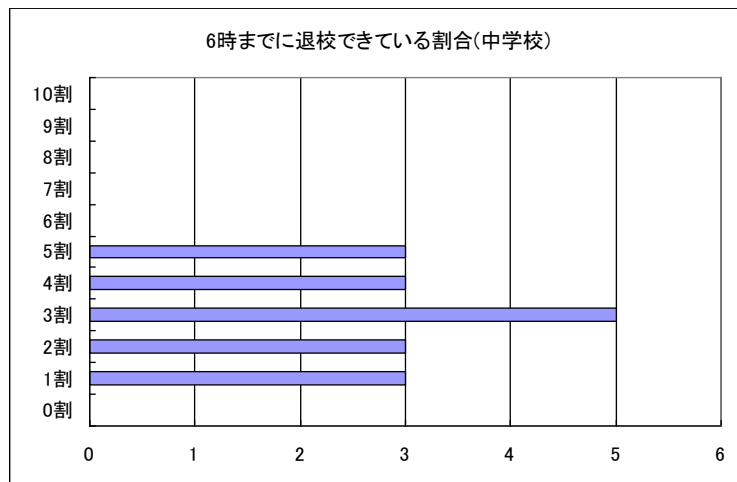
小・特別支援学校において、午後 6 時までに概ね（8 割以上）退校できている学校は 3 校であるが、退校者は徐々に増加し、7 時には 30 校（63.8%）が概ね退校できている。



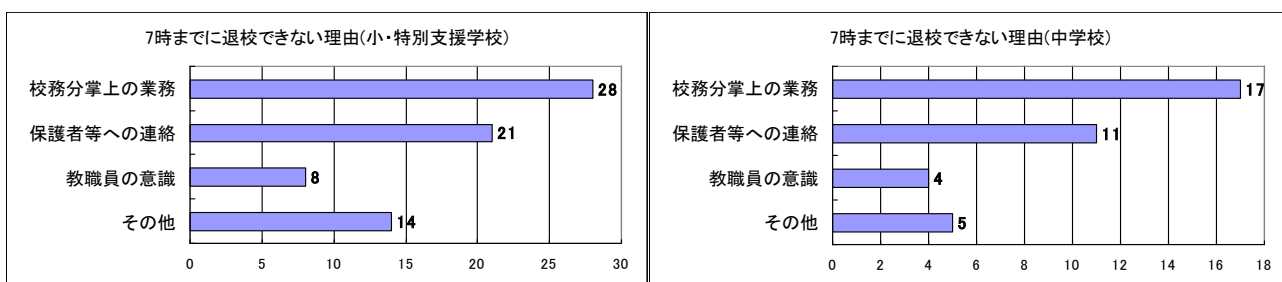


② 中学校

中学校において、午後6時までに概ね退校できている学校はないが、退校者は徐々に増加し、7時には11校（64.7%）が概ね退校できている。



(2) 7時までに退校できない理由



7時までに退校できない理由として、小・特別支援学校、中学校ともに、どうしてもその日のうちにやらなければならない校務分掌上の業務（学級事務や授業準備、行事の準備など）が最も多く、次に、その日のうちに取らなければならない保護者等への連絡が続いている。

少数であるが、早く帰ろうとしない教職員の意識の課題も指摘されている。

その他の主なものは、次のとおりである。

【小・特別支援学校】

- 行事や研究発表会の準備等、その期間に集中している業務への対応
- 保護者から学校に来て相談したいと連絡があれば、本日は定時退校日ですからと断れない。
- 保護者に電話をしてつながらず、着信への折り返しがあるのを待っている。
- 市内一斉退校日とスクールカウンセラー来校日が重なっており、SCからの報告を受けていると、どうしても定時には退校できない。

【中学校】

- 生徒指導事案が発生し、その日のうちに指導し教育相談を実施する必要があった。
- 市内一斉定時退校日の設定で、8時以降まで残る教職員は、「0」になった。

(3) チラシ配布後の保護者等から質問や意見等

- 地域（児童の祖父母）の方から、「毎日遅くまで先生達は仕事をされているので、体を壊さないか大変心配しています。このような取り組みは大事だと思います。」という声をいただいた。
- 定時退校日の6時過ぎに保護者から電話があったときに、「今日は早く帰らなければならない日ですが、電話に出られますか？」と反応があったので、保護者の理解もある程度得られていると思われる。
- 「先生の労働時間が多いことはニュースで聞いた。このような取組は大変よいと思う」「健康や家庭を大事にする先生に、自分の子どもを教えてもらいたいと思う」という声が寄せられた。
- 「ぜひ、（市内一斉定時退校を）実行して下さい。」と数名の方から声をかけていただいた。
- 校区内のコミュニティセンターは、全て好意的な意見であった。
- 「17：00以降に学校へ電話をしたがつながらなかった」というご意見（苦情？）が1件あった。
- 市内一斉定時退校日にもかかわらず、保護者からの時間外の電話は通常と変わらずにある。

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

資料集

議題2

久留米市の特別支援教育について

平成29年11月6日

資料1 中核市における特別支援学級の状況

* 順位は小中合計の割合であり、全体平均の境界に太線を示している。

* 数値は平成29年度時点のもの。ただし、函館市・豊中市・姫路市・尼崎市・西宮市を除く。

	小学校			中学校			合計			特学 順位	通級 順位
	在籍	総数	割合	在籍	総数	割合	在籍	総数	割合		
旭川市	995	15,074	6.60	434	8,018	5.41	1,429	23,092	6.19	1	11
高槻市	1,125	18,421	6.11	445	8,965	4.96	1,570	27,386	5.73	2	31
福山市	1,311	25,220	5.20	368	11,571	3.18	1,679	36,791	4.56	3	9
東大阪市	1,006	22,991	4.38	378	11,691	3.23	1,384	34,682	3.99	4	41
倉敷市	1,192	27,434	4.35	392	12,866	3.05	1,584	40,300	3.93	5	7
枚方市	931	21,692	4.29	227	10,517	2.16	1,158	32,209	3.60	6	35
那覇市	748	19,870	3.76	267	9,030	2.96	1,015	28,900	3.51	7	36
奈良市	589	15,877	3.71	201	7,673	2.62	790	23,550	3.36	8	22
久留米市	578	16,687	3.46	173	7,560	2.29	751	24,247	3.10	9	18
高知市	486	16,054	3.03	176	5,851	3.01	662	21,905	3.02	10	42
鹿児島市	1,121	33,006	3.40	305	15,754	1.94	1,426	48,760	2.93	11	20
下関市	406	12,561	3.23	120	5,924	2.03	526	18,485	2.85	12	4
長野市	480	19,503	2.46	326	9,838	3.31	806	29,341	2.75	13	33
横須賀市	531	19,149	2.77	247	10,169	2.43	778	29,318	2.65	14	37
和歌山市	481	17,053	2.82	167	7,626	2.19	648	24,679	2.63	15	21
八戸市	305	11,249	2.71	149	6,247	2.39	454	17,496	2.60	16	12
宮崎市	577	22,531	2.56	232	9,731	2.38	809	32,262	2.51	17	14
郡山市	459	16,545	2.77	160	9,072	1.76	619	25,617	2.42	18	39
大津市	458	18,631	2.46	195	9,057	2.15	653	27,688	2.36	19	26
大分市	665	26,451	2.51	220	12,203	1.80	885	38,654	2.29	20	40
呉市	247	10,570	2.34	111	5,128	2.17	358	15,698	2.28	21	29
高松市	574	23,134	2.48	212	11,343	1.87	786	34,477	2.28	22	43
盛岡市	326	14,767	2.21	147	7,393	1.99	473	22,160	2.13	23	23
柏市	508	21,935	2.32	173	9,998	1.73	681	31,933	2.13	24	19
前橋市	338	16,582	2.04	176	8,563	2.06	514	25,145	2.04	25	10
豊橋市	478	20,830	2.30	168	10,801	1.56	646	31,631	2.04	26	17
長崎市	450	19,430	2.32	130	9,153	1.42	580	28,583	2.03	27	2
岡崎市	431	22,174	1.94	188	10,760	1.75	619	32,934	1.88	28	15
いわき市	331	16,933	1.96	149	9,155	1.63	480	26,088	1.84	29	34
宇都宮市	490	27,951	1.75	239	13,218	1.81	729	41,169	1.77	30	30
佐世保市	239	13,777	1.74	117	6,363	1.84	356	20,140	1.77	31	8
岐阜市	381	20,461	1.86	160	10,506	1.52	541	30,967	1.75	32	3
青森市	239	13,573	1.76	122	7,422	1.64	361	20,995	1.72	33	28
豊田市	410	24,398	1.68	205	12,362	1.66	615	36,760	1.67	34	27
高崎市	330	20,143	1.64	164	9,999	1.64	494	30,142	1.64	35	6
富山市	375	20,678	1.81	140	10,742	1.30	515	31,420	1.64	36	5
松山市	449	26,626	1.69	175	12,210	1.43	624	38,836	1.61	37	13
八王子市	405	27,989	1.45	226	13,207	1.71	631	41,196	1.53	38	1
越谷市	284	18,034	1.58	112	8,620	1.30	396	26,654	1.49	39	38
金沢市	322	23,354	1.38	145	11,451	1.27	467	34,805	1.34	40	16
川越市	232	17,968	1.29	108	8,589	1.26	340	26,557	1.28	41	24
船橋市	336	33,644	1.00	185	15,026	1.23	521	48,670	1.07	42	25
秋田市	157	14,114	1.11	55	7,257	0.76	212	21,371	0.99	43	32
		平均	2.63		平均	2.10		平均	2.46		

資料3 中核市(特別支援学校設置14市)における通学支援の状況

No.	中核市	特別支援学校		児童生徒 (定数)	通学支援			医療的ケア児童生徒の状況		
		校数	種別		市立	スクールバス 利用者数	利用率	介護タクシー その他の 利用者数	児童 生徒数	うち通学支 援を受けて いる者
1	前橋市	1	知的	95	85	89.5%		1	1	バスでの送迎
2	高崎市	1	知的	88	69	78.4%		1		
3	川越市	1	知的	48	0	—				
4	船橋市	1	知的	321	237	73.8%		1	1	バスで送迎
5	横須賀市	2	肢体・ 聾	45	22	48.9%		16		
6	岐阜市	1	知的	230	123	53.5%				
7	豊橋市	1	知的	243	201	82.7%				
8	豊田市	1	肢体	116	60	51.7%		20		
9	姫路市	1	肢体	75	50	66.7%		20	数名	バスで送迎
10	尼崎市	1	肢体	44	42	95.5%		13	11	バスで送迎＋ 必要時に医療行 為(看護師)
11	西宮市	1	肢体	77	50	64.9%		39	12	バスで送迎
12	倉敷市	1	知的	232	165	71.1%				
13	高知市	1	知的	151	70	46.4%		2 訪問教育		
14	久留米市	1	知的	239	162	67.8%		16		

* 医療的ケア児のスクールバスによる通学支援は5市(知的2市、肢体3市)

平成29年度 第2回 久留米市総合教育会議

資料集

議題3

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

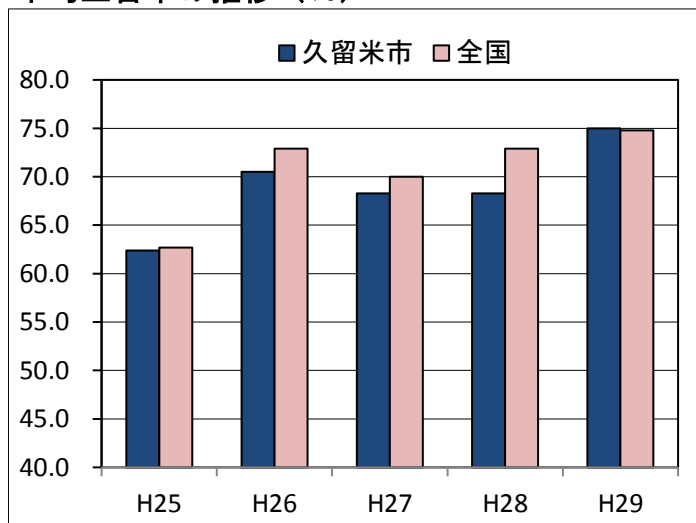
平成29年11月6日

資料1-1 平均正答率の推移(小学校)

小学校 国語 A

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	62.4	70.5	68.3	68.3	75
全国	62.7	72.9	70.0	72.9	74.8
差	▲ 0.3	▲ 2.4	▲ 1.7	▲ 4.6	0.2

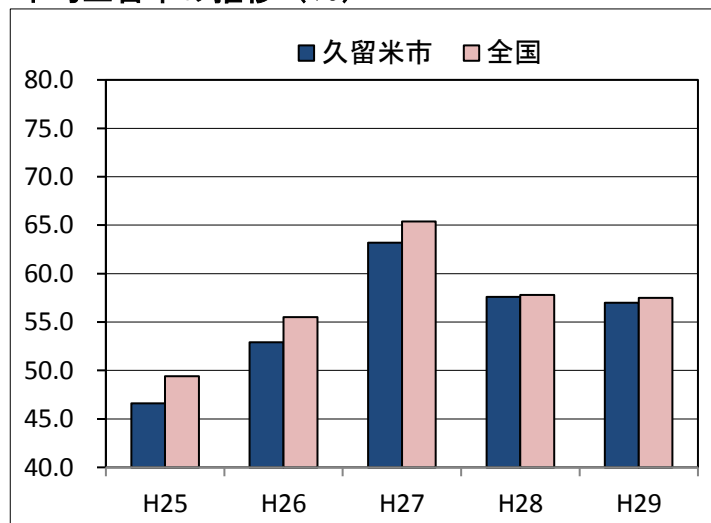
平均正答率の推移 (%)



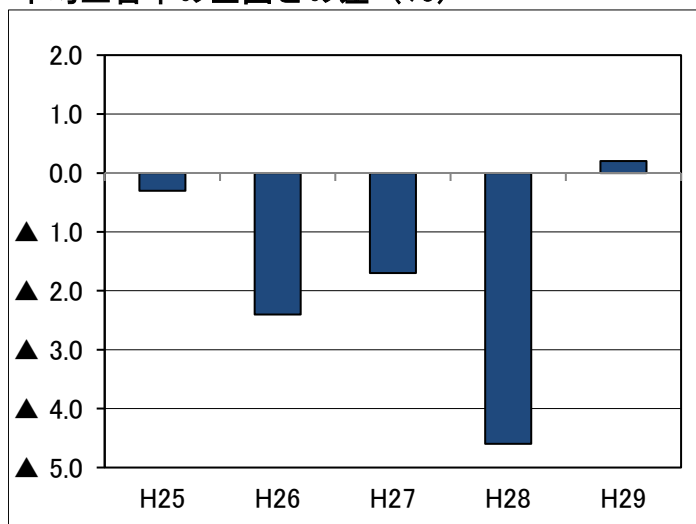
小学校 国語 B

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	46.6	52.9	63.2	57.6	57
全国	49.4	55.5	65.4	57.8	57.5
差	▲ 2.8	▲ 2.6	▲ 2.2	▲ 0.2	▲ 0.5

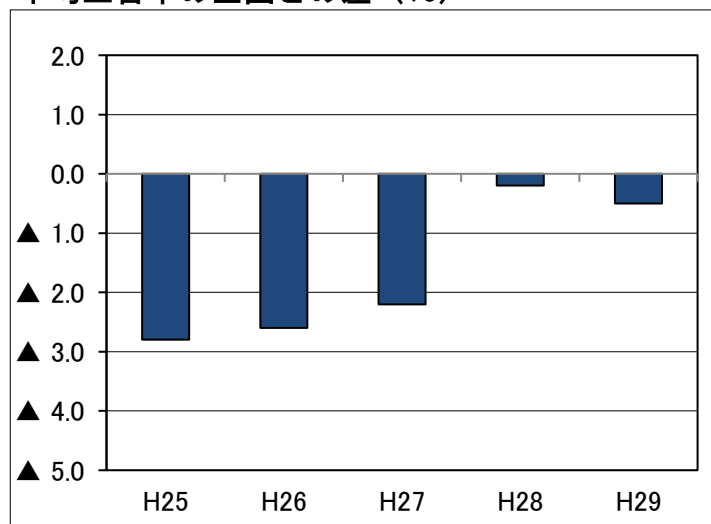
平均正答率の推移 (%)



平均正答率の全国との差 (%)



平均正答率の全国との差 (%)

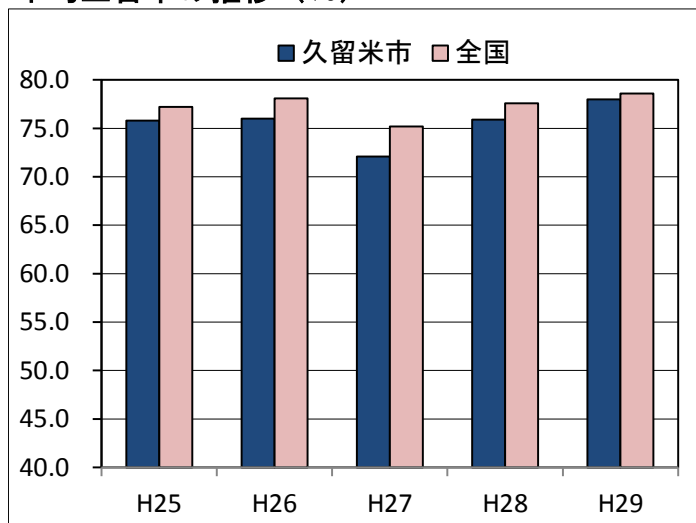


資料1-2 平均正答率の推移(小学校)

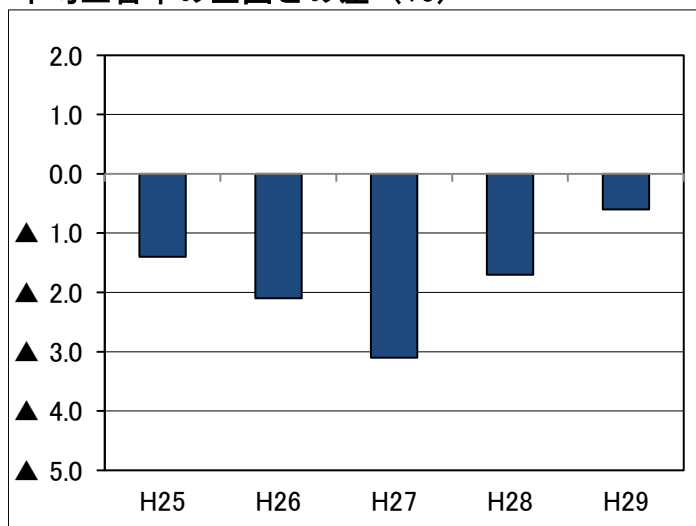
小学校 算数A

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	75.8	76.0	72.1	75.9	78
全国	77.2	78.1	75.2	77.6	78.6
差	▲ 1.4	▲ 2.1	▲ 3.1	▲ 1.7	▲ 0.6

平均正答率の推移 (%)



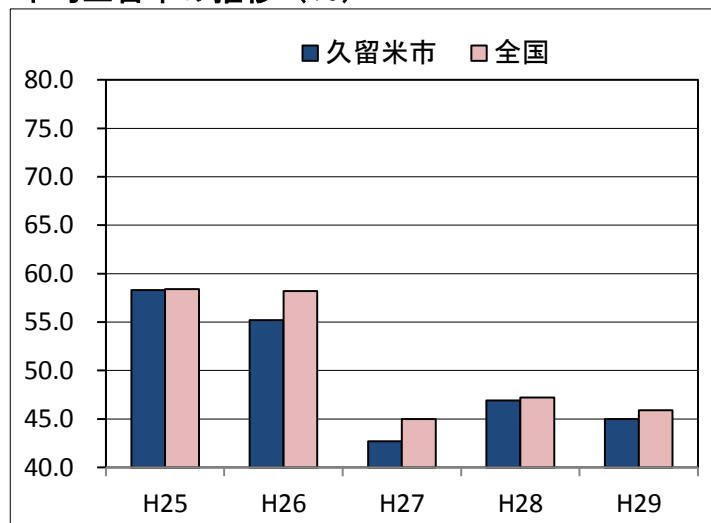
平均正答率の全国との差 (%)



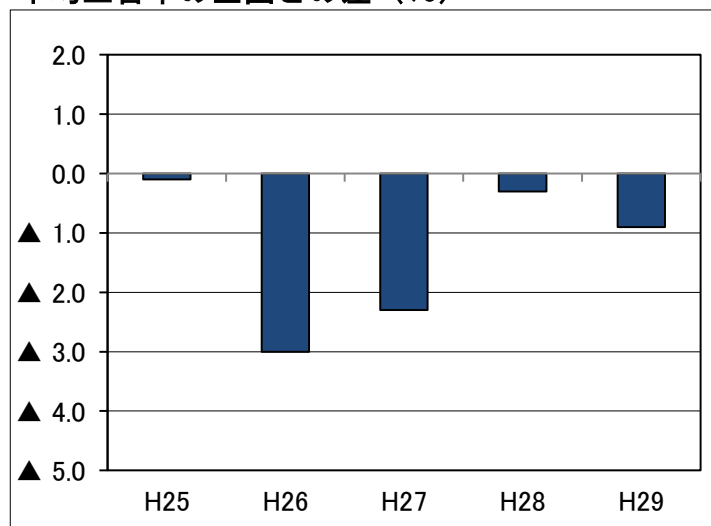
小学校 算数B

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	58.3	55.2	42.7	46.9	45
全国	58.4	58.2	45.0	47.2	45.9
差	▲ 0.1	▲ 3.0	▲ 2.3	▲ 0.3	▲ 0.9

平均正答率の推移 (%)



平均正答率の全国との差 (%)



資料2-1 平均正答率の推移(中学校)

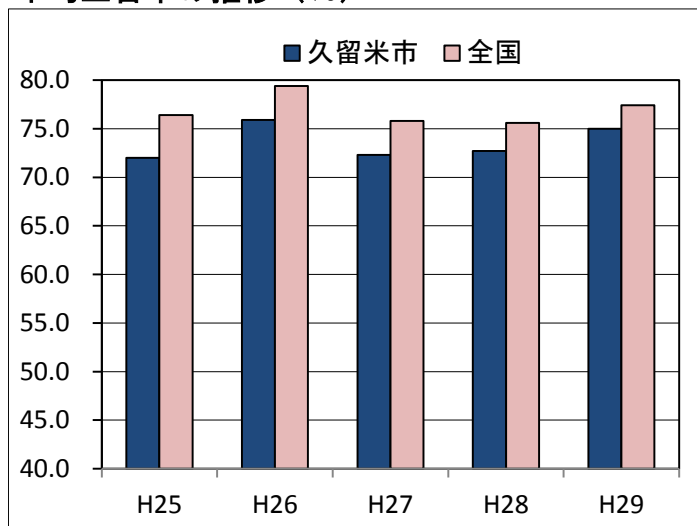
中学校 国語 A

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	72.0	75.9	72.3	72.7	75
全国	76.4	79.4	75.8	75.6	77.4
差	▲ 4.4	▲ 3.5	▲ 3.5	▲ 2.9	▲ 2.4

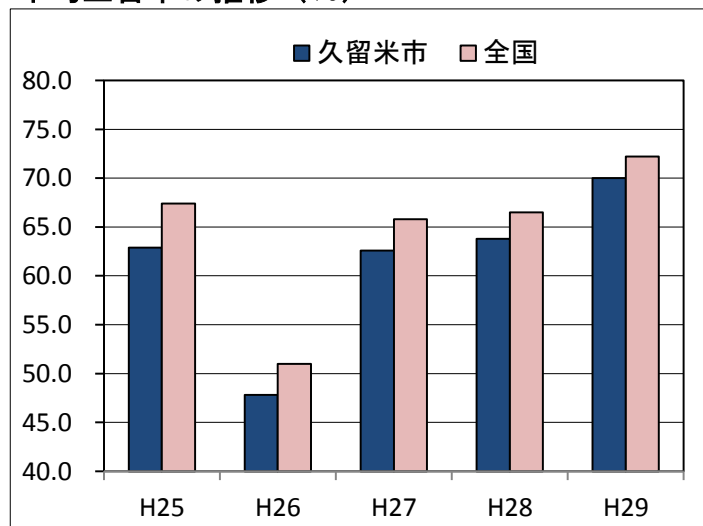
中学校 国語 B

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	62.9	47.8	62.6	63.8	70
全国	67.4	51.0	65.8	66.5	72.2
差	▲ 4.5	▲ 3.2	▲ 3.2	▲ 2.7	▲ 2.2

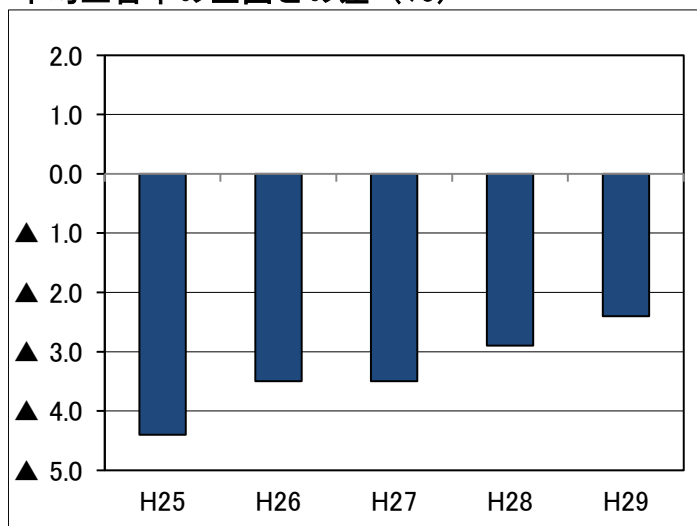
平均正答率の推移 (%)



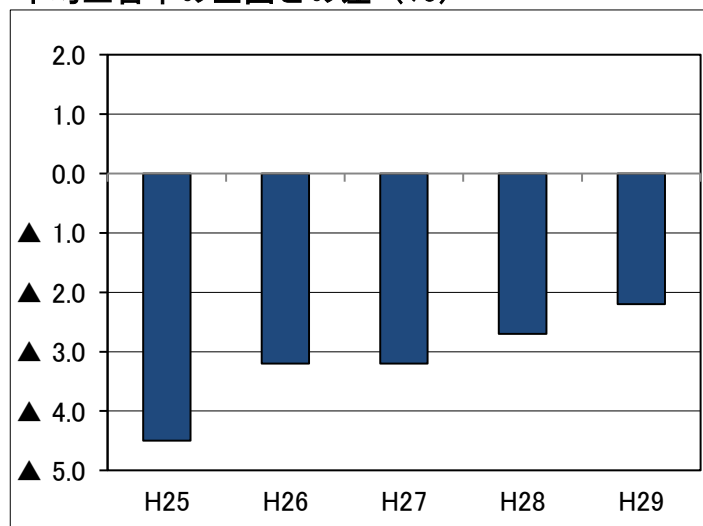
平均正答率の推移 (%)



平均正答率の全国との差 (%)



平均正答率の全国との差 (%)

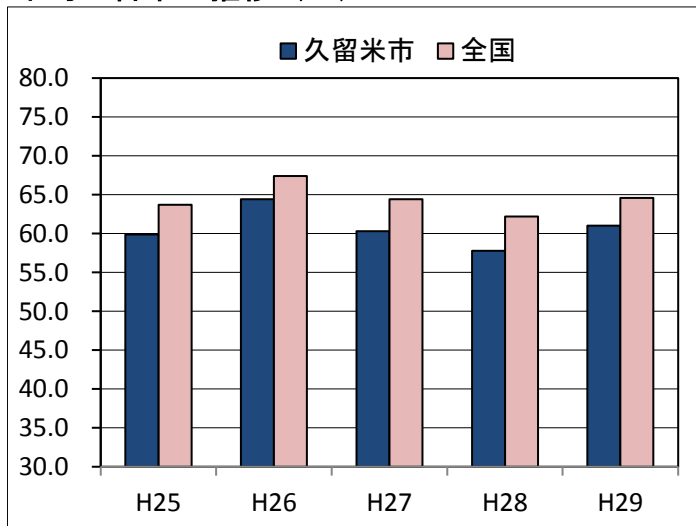


資料2-2 平均正答率の推移(中学校)

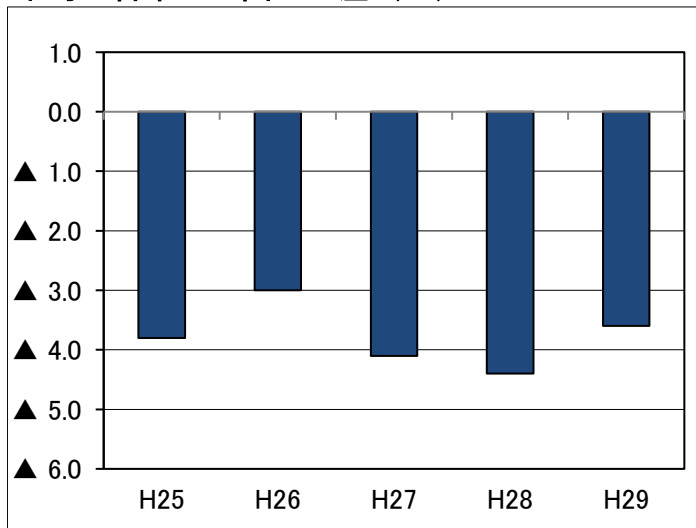
中学校 数学A

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	59.9	64.4	60.3	57.8	61
全国	63.7	67.4	64.4	62.2	64.6
差	▲ 3.8	▲ 3.0	▲ 4.1	▲ 4.4	▲ 3.6

平均正答率の推移 (%)



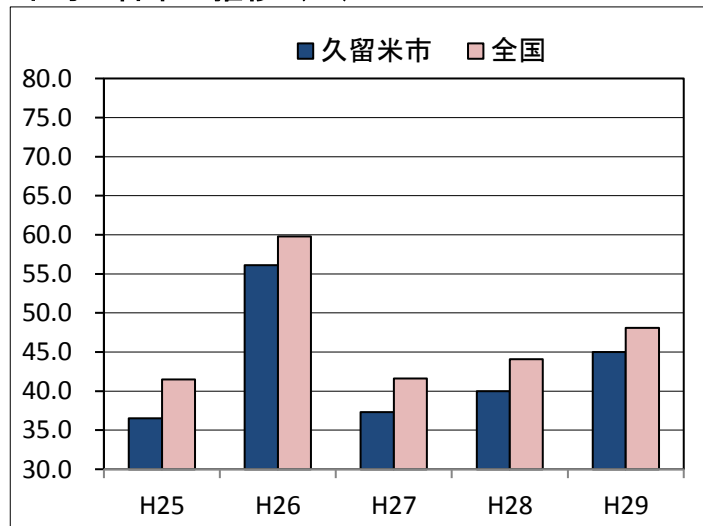
平均正答率の全国との差 (%)



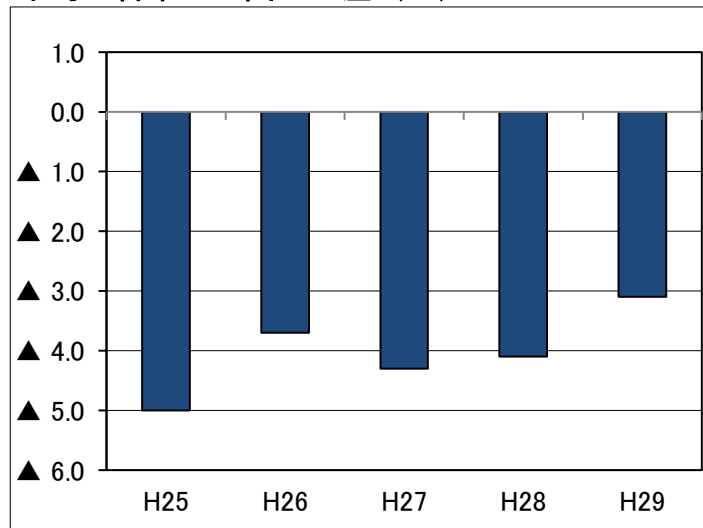
中学校 数学B

	H25	H26	H27	H28	H29
久留米市	36.5	56.1	37.3	40.0	45
全国	41.5	59.8	41.6	44.1	48.1
差	▲ 5.0	▲ 3.7	▲ 4.3	▲ 4.1	▲ 3.1

平均正答率の推移 (%)



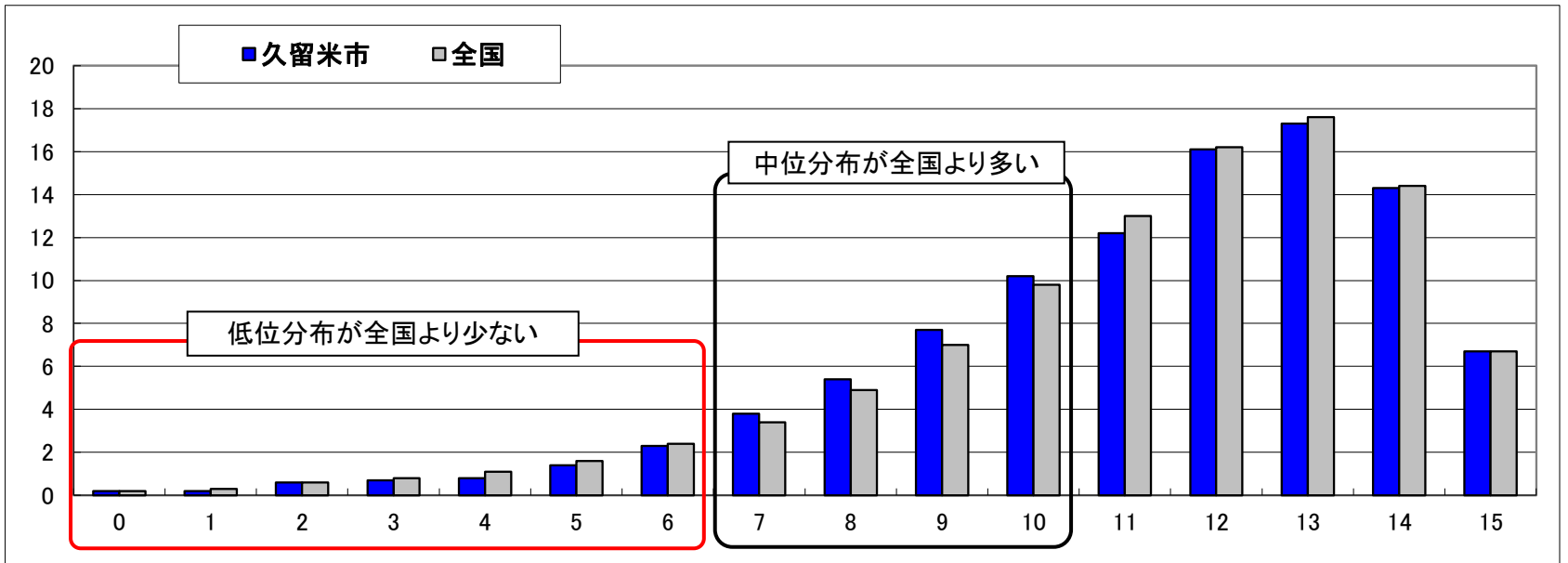
平均正答率の全国との差 (%)



資料 3-1 正答数別の分布状況（小学校）

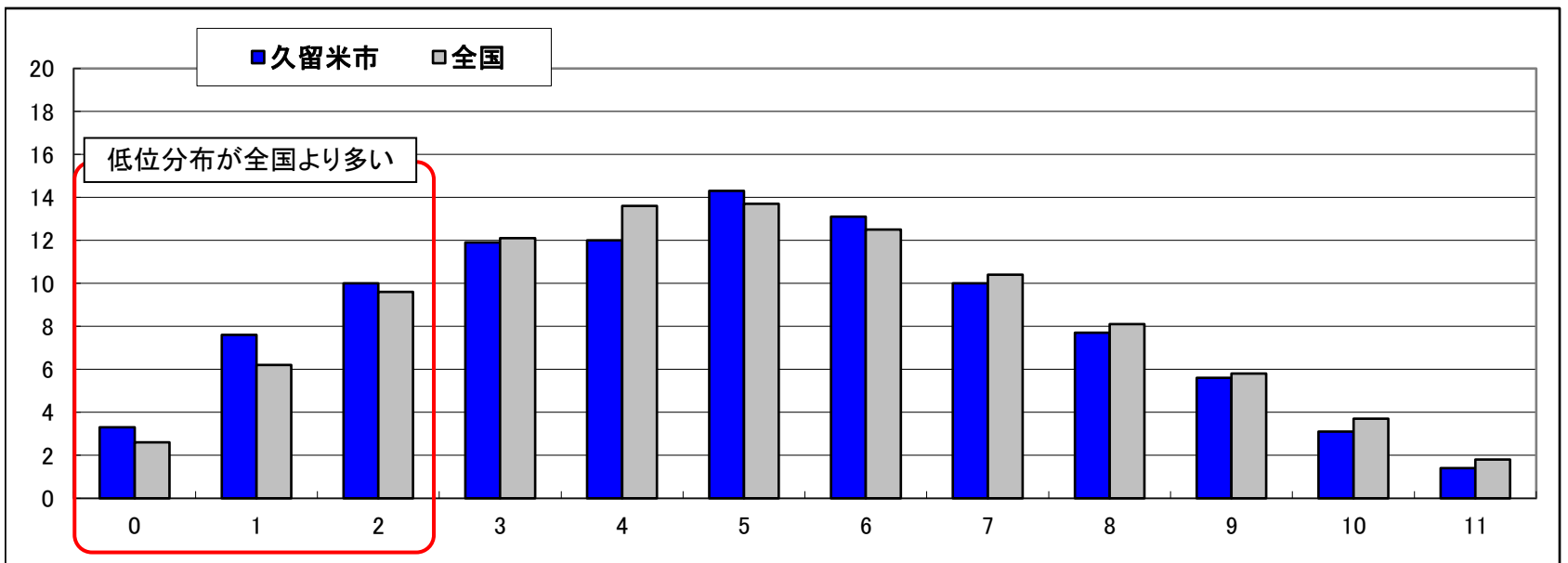
国語A（全15問）

	平均 正答率	正答した問題数別の分布割合															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
久留米市	75	0.2	0.2	0.6	0.7	0.8	1.4	2.3	3.8	5.4	7.7	10.2	12.2	16.1	17.3	14.3	6.7
全国	74.8	0.2	0.3	0.6	0.8	1.1	1.6	2.4	3.4	4.9	7.0	9.8	13.0	16.2	17.6	14.4	6.7



算数B（全11問）

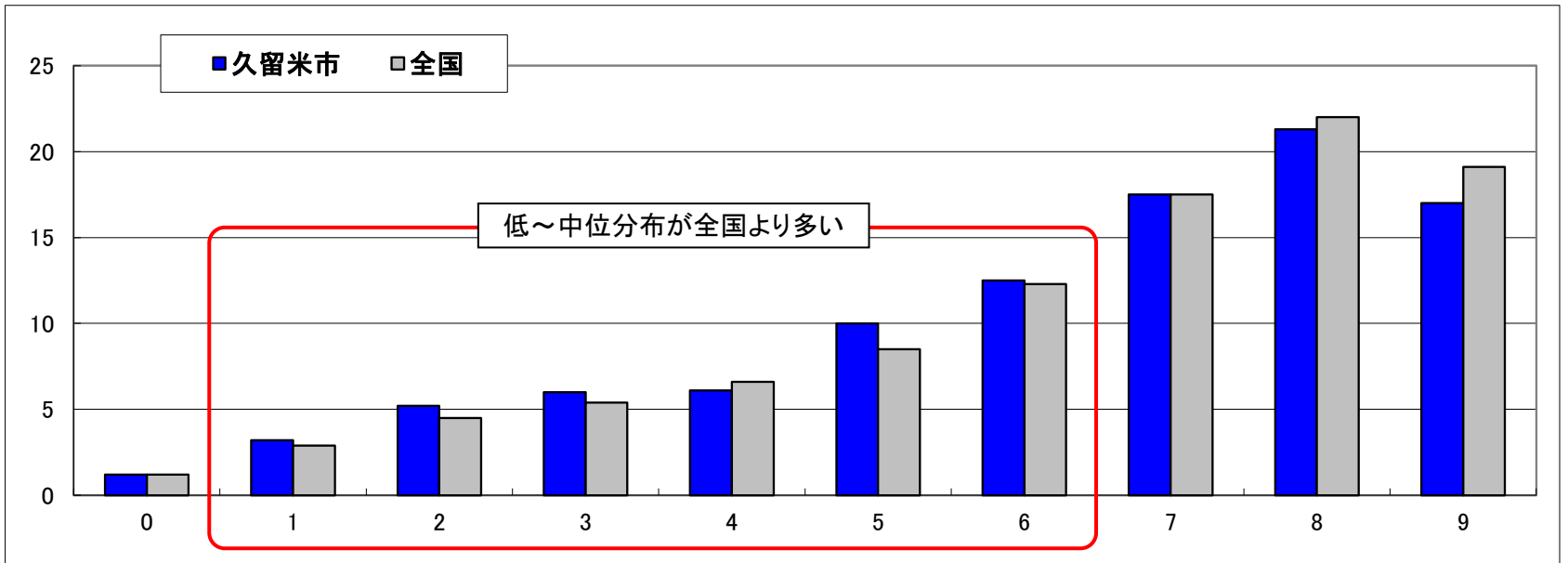
	平均 正答率	正答した問題数別の分布割合											
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
久留米市	45	3.3	7.6	10.0	11.9	12.0	14.3	13.1	10.0	7.7	5.6	3.1	1.4
全国	45.9	2.6	6.2	9.6	12.1	13.6	13.7	12.5	10.4	8.1	5.8	3.7	1.8



資料 3-2 正答数別の分布状況（中学校）

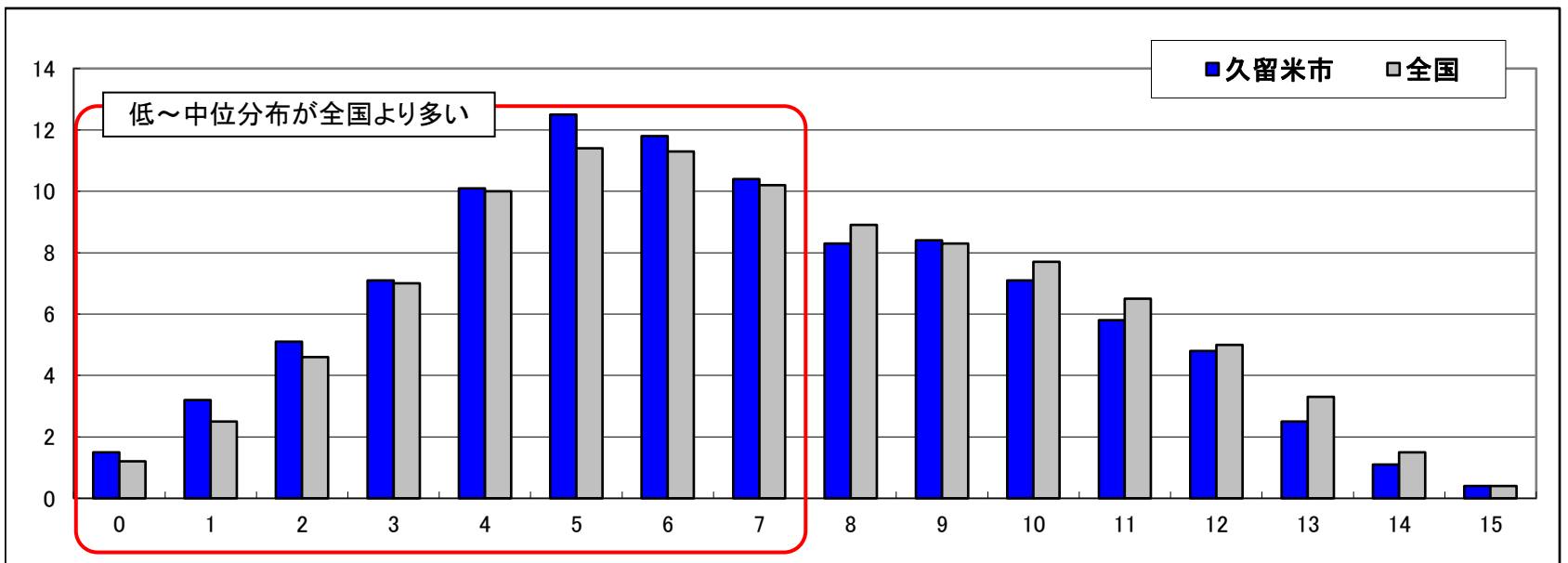
国語B（全9問）

	平均 正答率	正答した問題数別の分布割合									
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
久留米市	70	1.2	3.2	5.2	6.0	6.1	10.0	12.5	17.5	21.3	17.0
全国	72.2	1.2	2.9	4.5	5.4	6.6	8.5	12.3	17.5	22.0	19.1



数学B（全15問）

	平均 正答率	正答した問題数別の分布割合															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
久留米市	45	1.5	3.2	5.1	7.1	10.1	12.5	11.8	10.4	8.3	8.4	7.1	5.8	4.8	2.5	1.1	0.4
全国	48.1	1.2	2.5	4.6	7.0	10.0	11.4	11.3	10.2	8.9	8.3	7.7	6.5	5.0	3.3	1.5	0.4

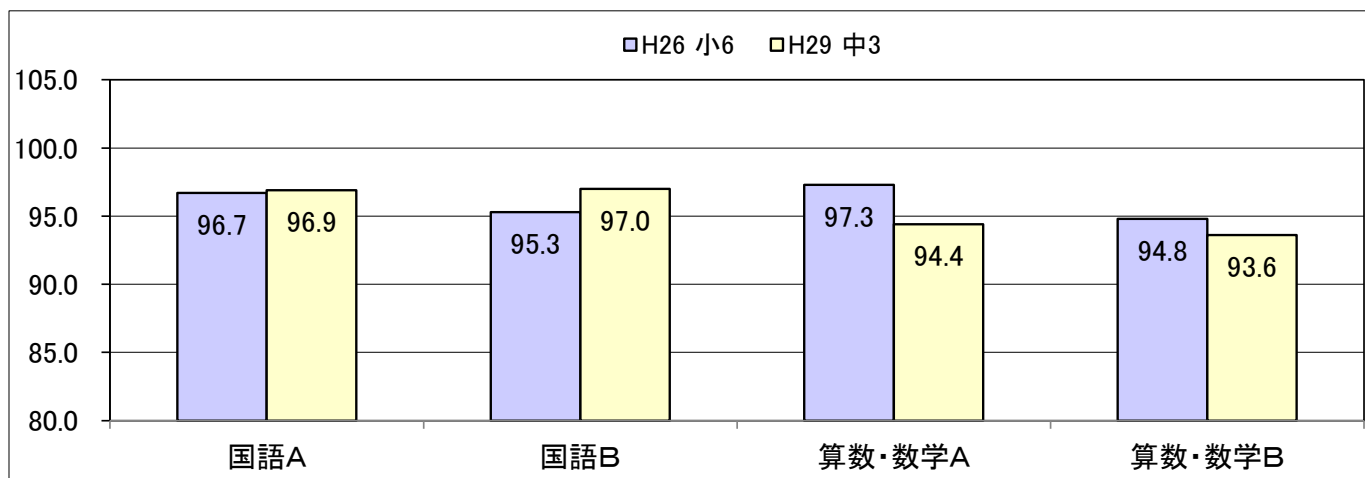


資料４－１ 同じ学年の児童生徒における小学校と中学校の学力変化

H26小6(全国学力・学習状況調査) ⇒ H29中3(全国学力・学習状況調査)

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
H26 小6	96.7	95.3	97.3	94.8
H29 中3	96.9	97.0	94.4	93.6
増減	0.2	1.7	▲ 2.9	▲ 1.2

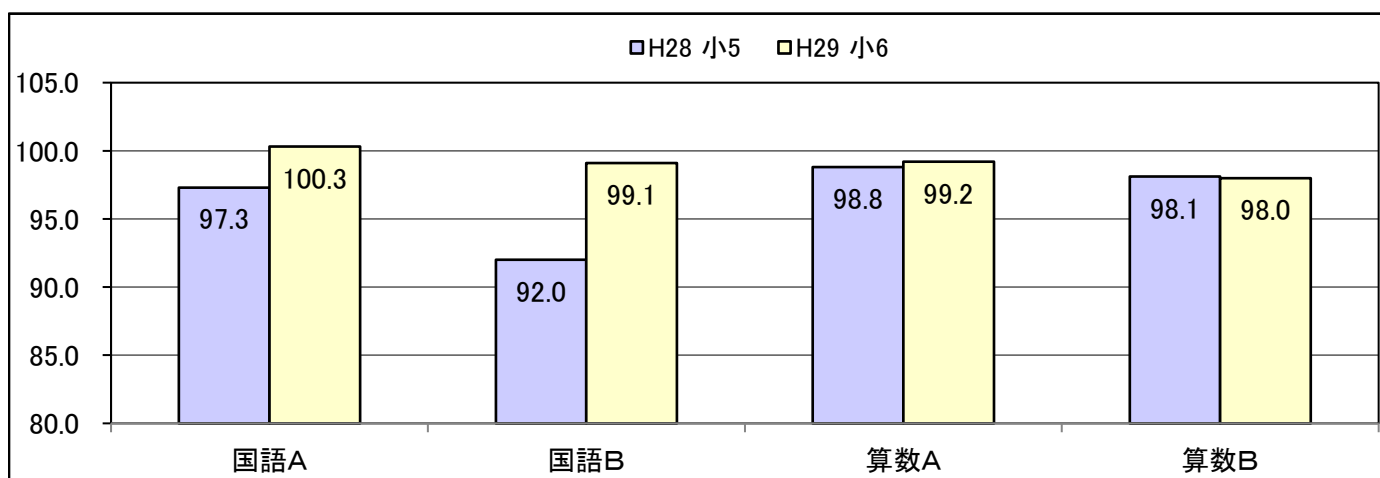
上表は、全国平均正答率を100とした場合の市の指数



H28小5(福岡県学力調査) ⇒ H29小6(全国学力・学習状況調査)

	国語A	国語B	算数A	算数B
H28 小5	97.3	92.0	98.8	98.1
H29 小6	100.3	99.1	99.2	98.0
増減	3.0	7.1	0.4	▲ 0.1

上表は、福岡県平均正答率を100とした場合の市の指数

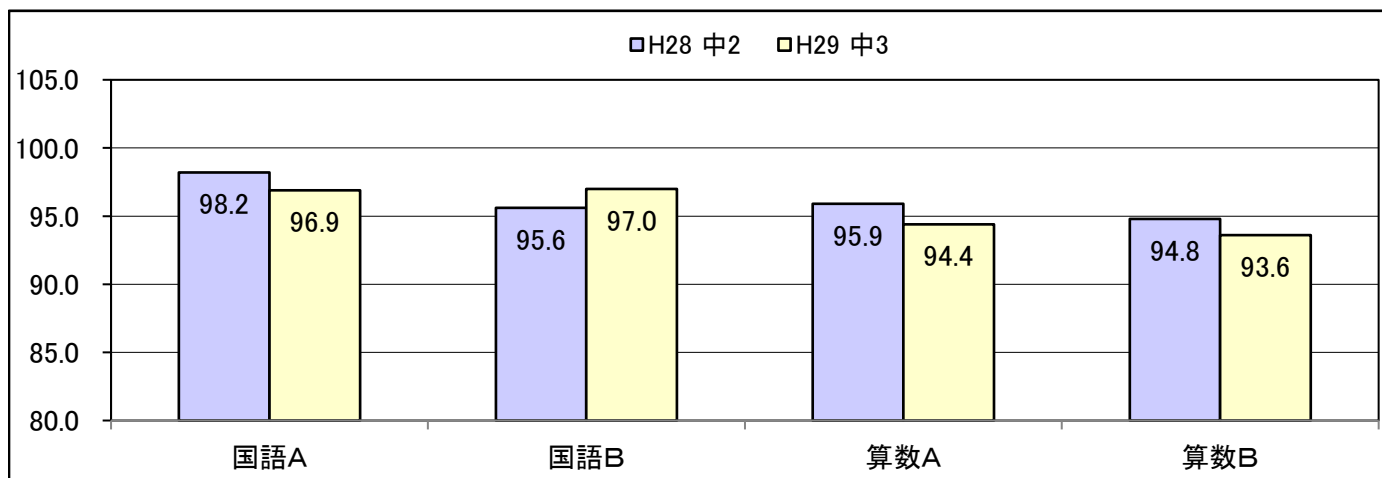


資料 4 - 2 同じ学年の児童生徒における小学校と中学校の学力変化

H28中2(福岡県学力調査) ⇒ H29中3(全国学力・学習状況調査)

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
H28 中2	98.2	95.6	95.9	94.8
H29 中3	96.9	97.0	94.4	93.6
増減	▲ 1.3	1.4	▲ 1.5	▲ 1.2

上表は、福岡県平均正答率を100とした場合の市の指数

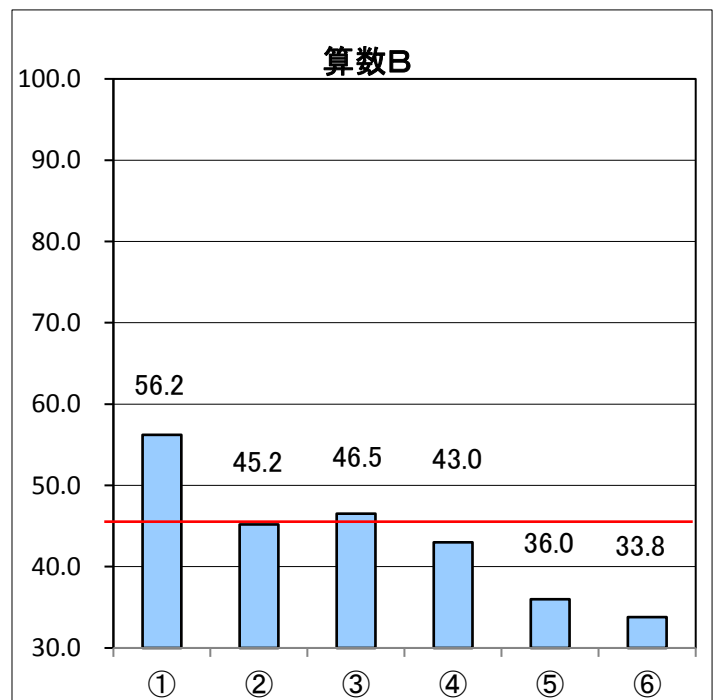
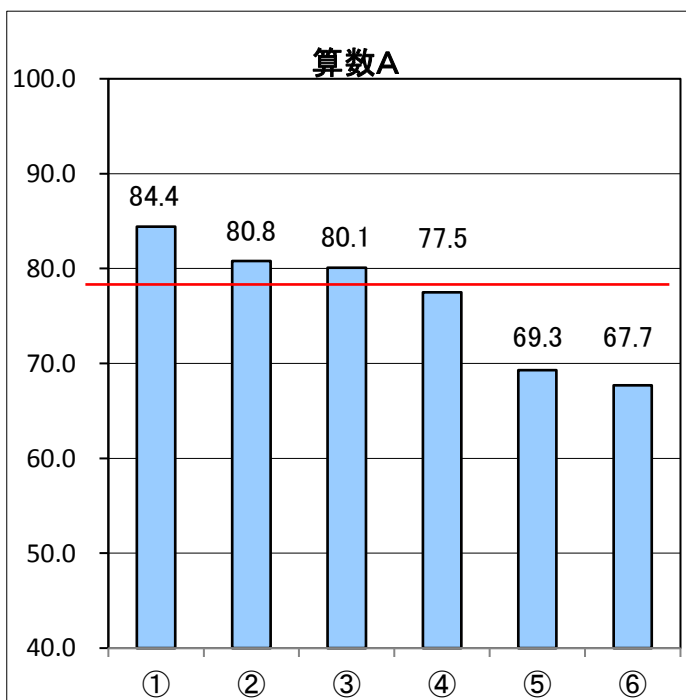
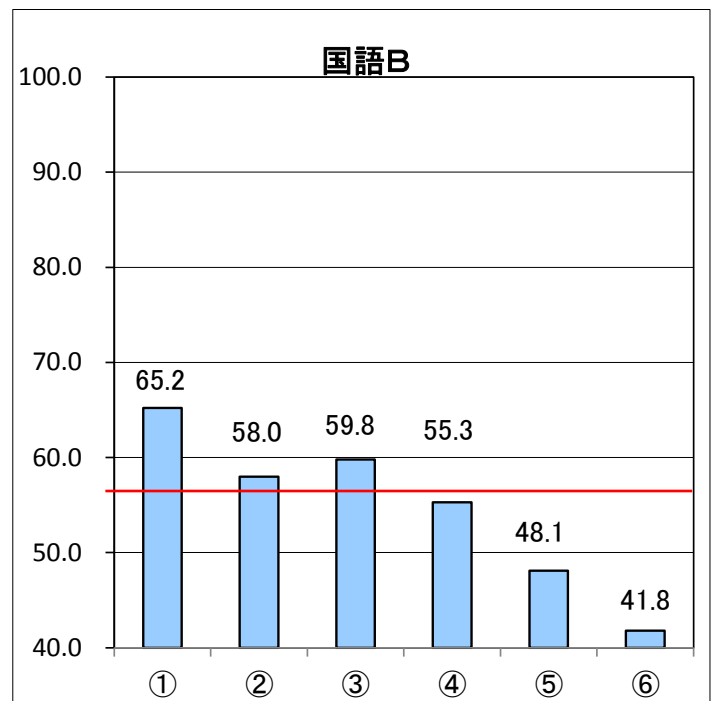
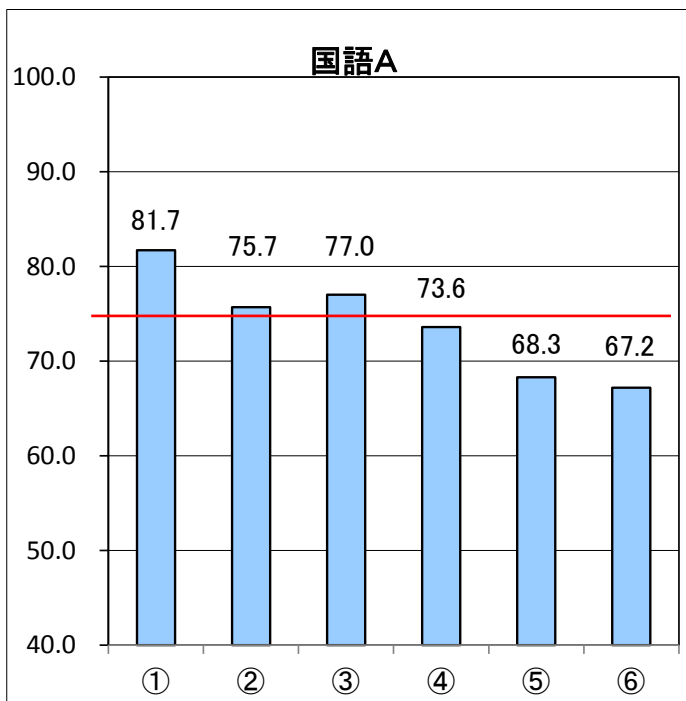


資料5-1 学習習慣と学力の相関（小学校）

質問 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン （児童生徒数）人 （左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	算数A	算数B
3時間以上 ①	270	11.9	10.8	81.7	65.2	84.4	56.2
2時間以上、3時間より少ない ②	318	15.2	12.7	75.7	58.0	80.8	45.2
1時間以上、2時間より少ない ③	792	37.3	31.7	77.0	59.8	80.1	46.5
30分以上、1時間より少ない ④	729	24.3	29.1	73.6	55.3	77.5	43.0
30分より少ない ⑤	288	8.4	11.5	68.3	48.1	69.3	36.0
全くしない ⑥	104	2.9	4.2	67.2	41.8	67.7	33.8
その他・無回答	1	0.1	0.0				
全国平均正答率				74.8	57.5	78.6	45.9

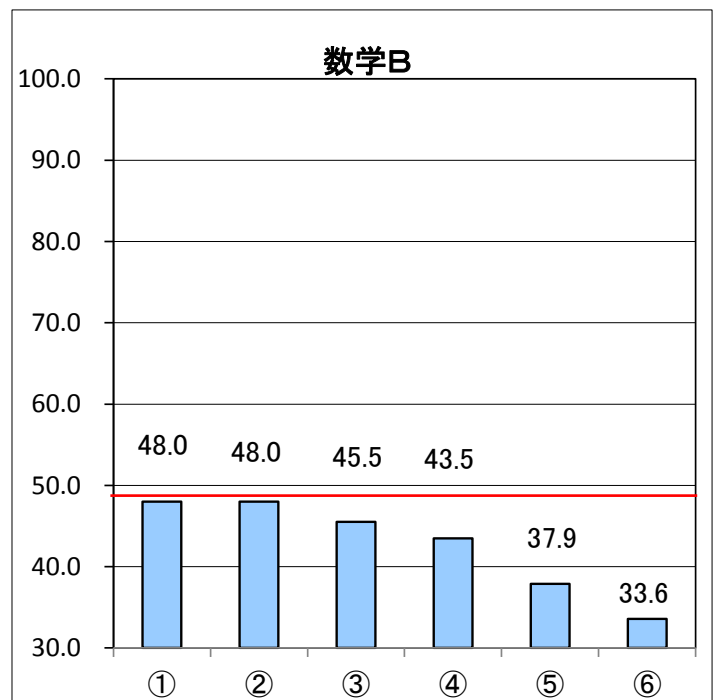
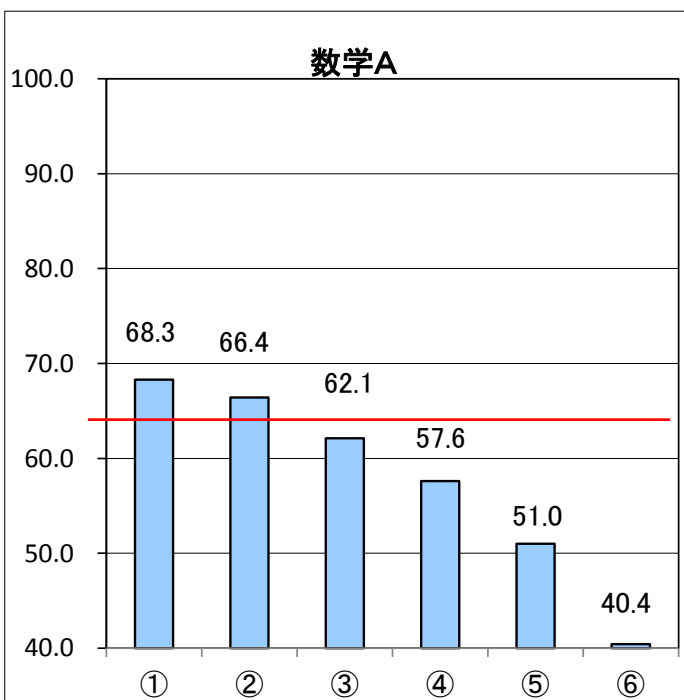
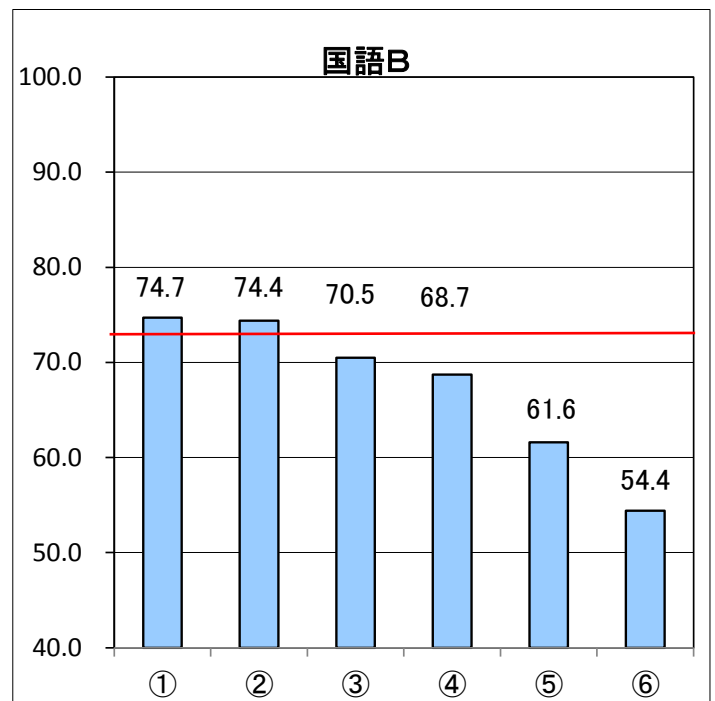
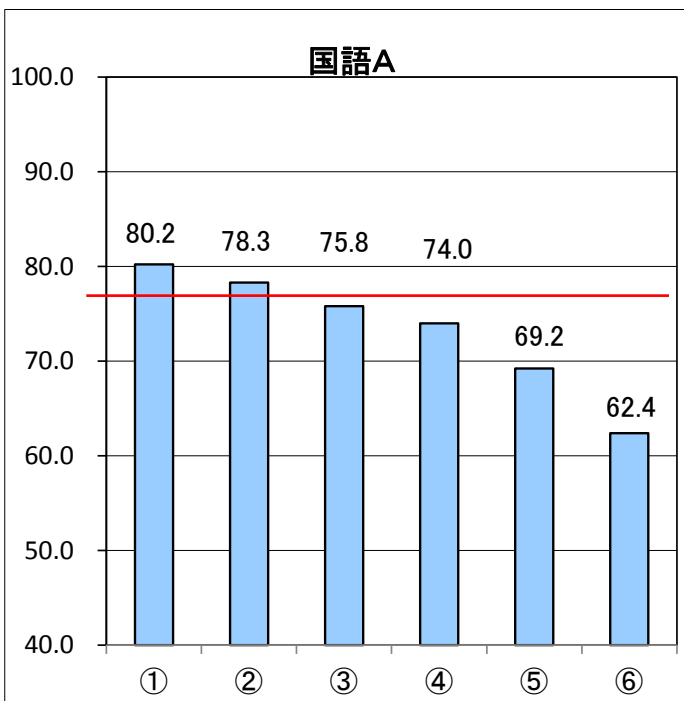


資料5-2 学習習慣と学力の相関（中学校）

質問 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	数学A	数学B
3時間以上 ①	306	10.1	12.1	80.2	74.7	68.3	48.0
2時間以上、3時間より少ない ②	625	25.3	24.8	78.3	74.4	66.4	48.0
1時間以上、2時間より少ない ③	716	34.2	28.4	75.8	70.5	62.1	45.5
30分以上、1時間より少ない ④	446	17.2	17.7	74.0	68.7	57.6	43.5
30分より少ない ⑤	267	8.3	10.6	69.2	61.6	51.0	37.9
全くしない ⑥	162	4.9	6.4	62.4	54.4	40.4	33.6
その他・無回答	1	0.1	0.0				
全国平均正答率				77.4	72.2	64.6	48.1

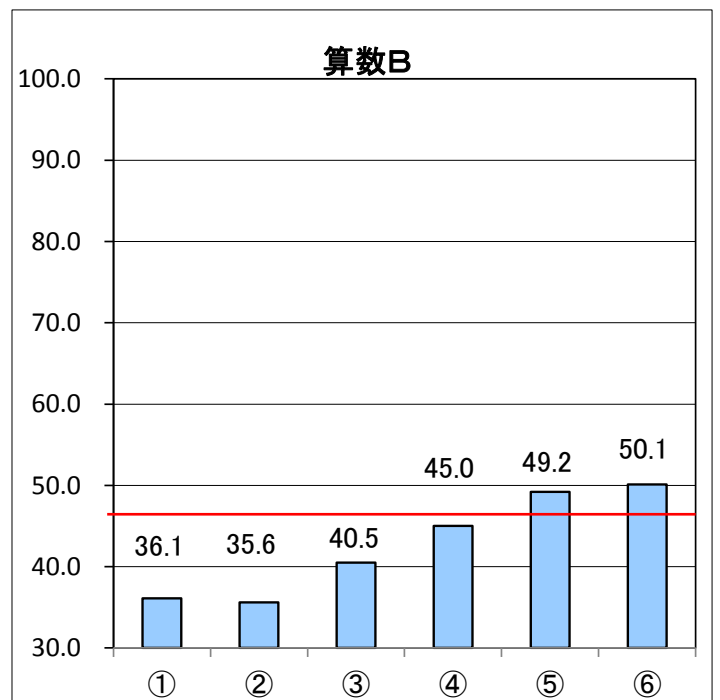
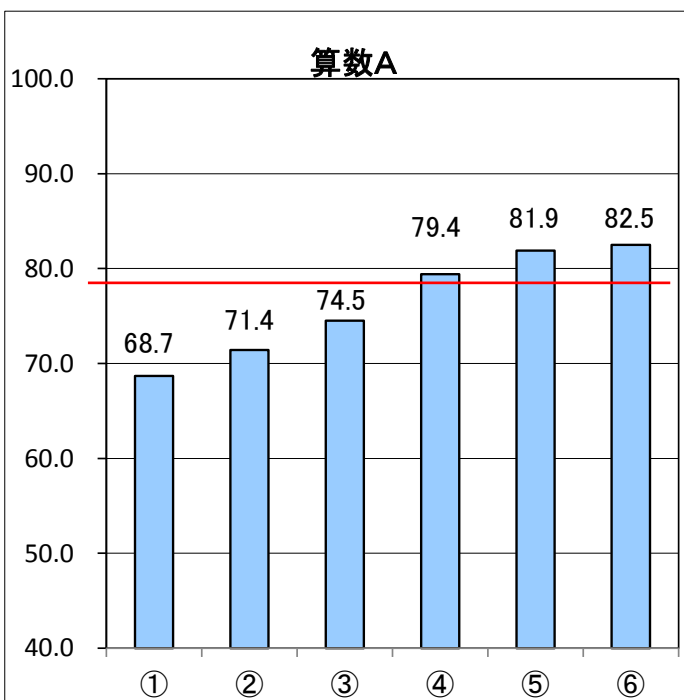
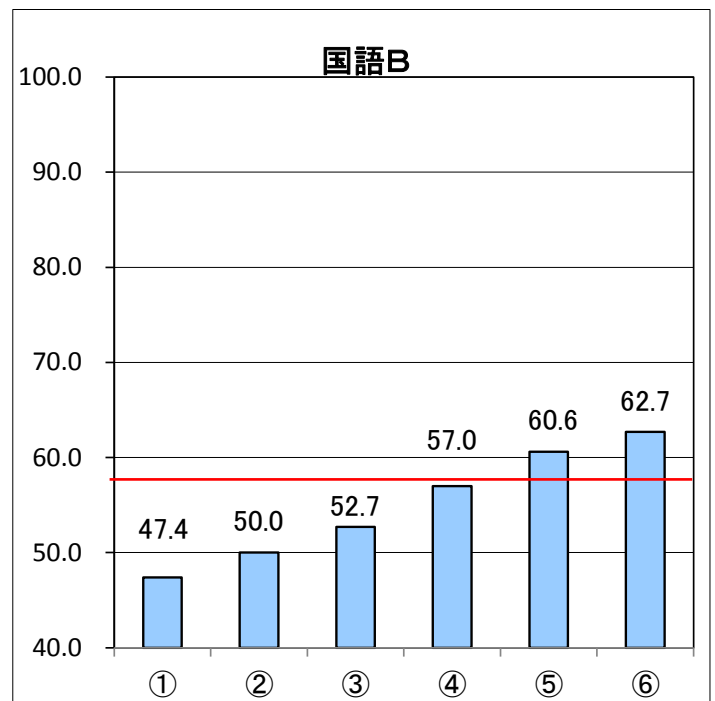
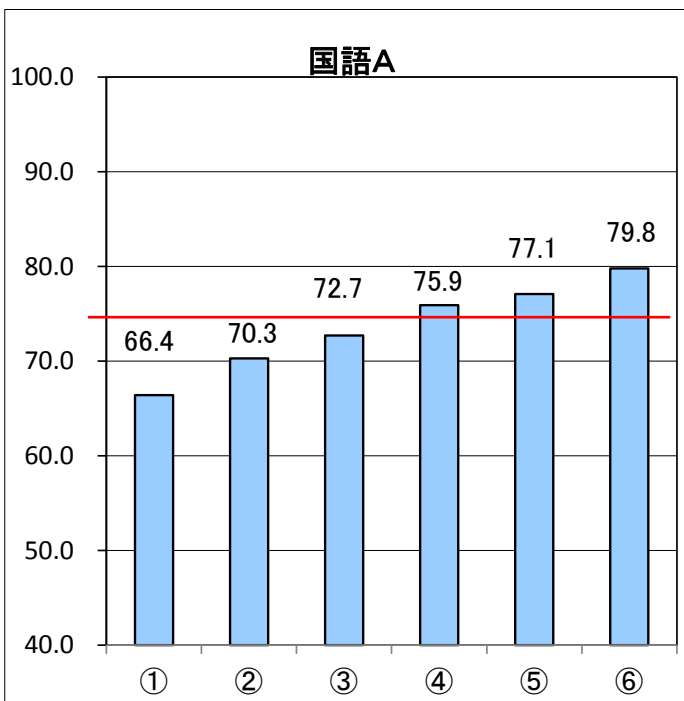


資料6-1 ゲーム利用と学力の相関（小学校）

質問 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。
（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	算数A	算数B
4時間以上 ①	249	9.3	10.0	66.4	47.4	68.7	36.1
3時間以上、4時間より少ない ②	198	8.3	7.9	70.3	50.0	71.4	35.6
2時間以上、3時間より少ない ③	365	13.5	14.6	72.7	52.7	74.5	40.5
1時間以上、2時間より少ない ④	590	24.4	23.6	75.9	57.0	79.4	45.0
1時間より少ない ⑤	729	30.4	29.1	77.1	60.6	81.9	49.2
全くしない ⑥	363	14.0	14.5	79.8	62.7	82.5	50.1
その他・無回答	8	0.1	0.3				
全国平均正答率				74.8	57.5	78.6	45.9

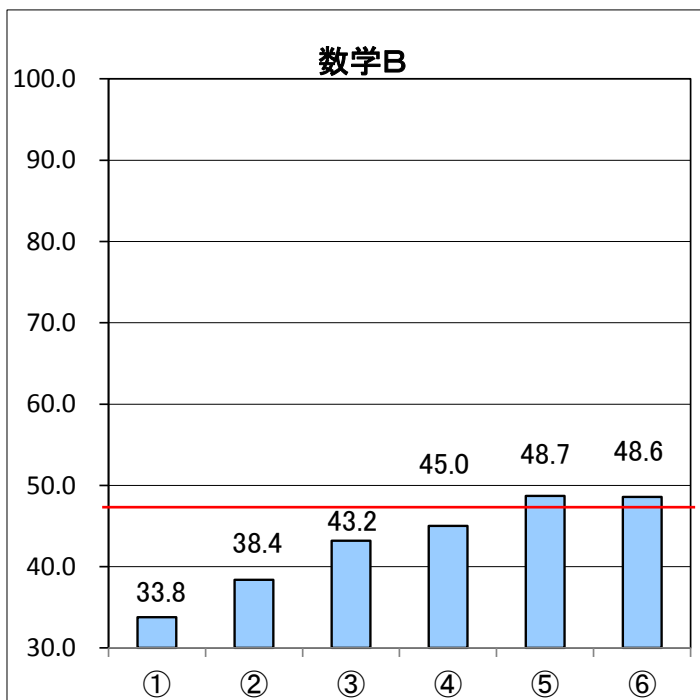
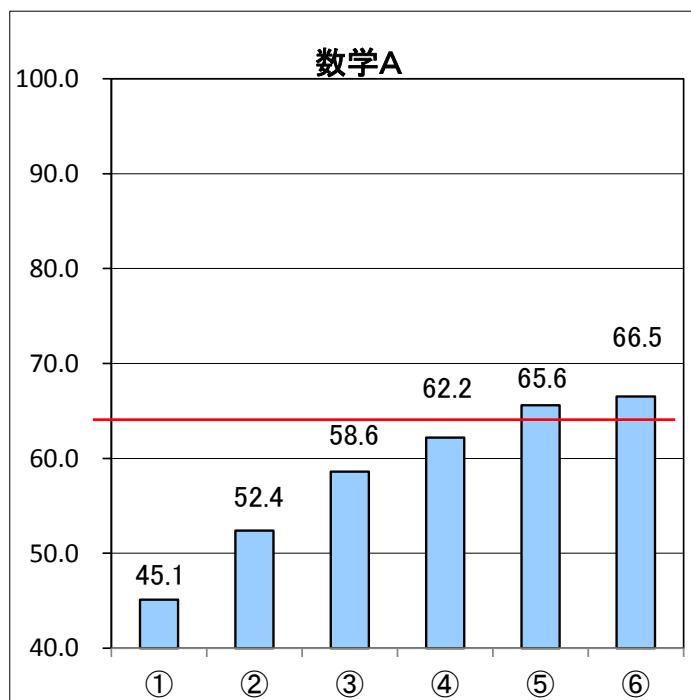
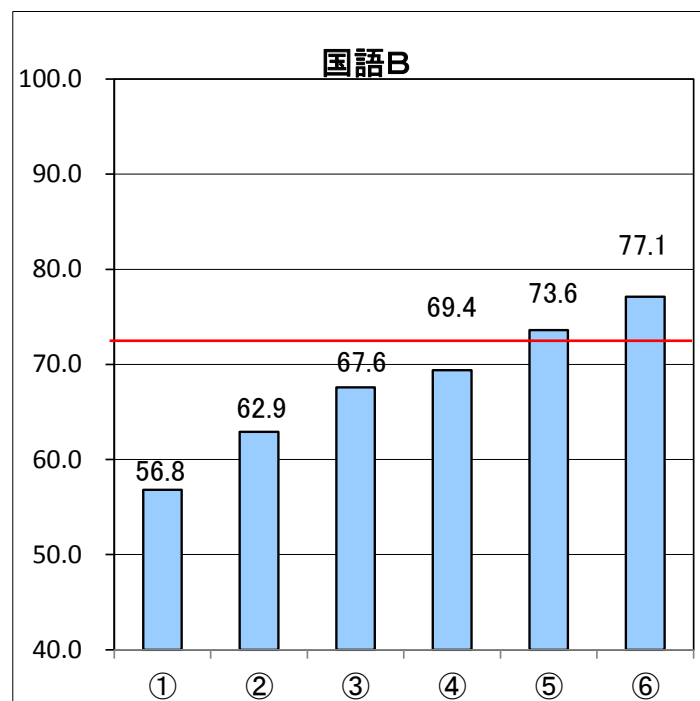
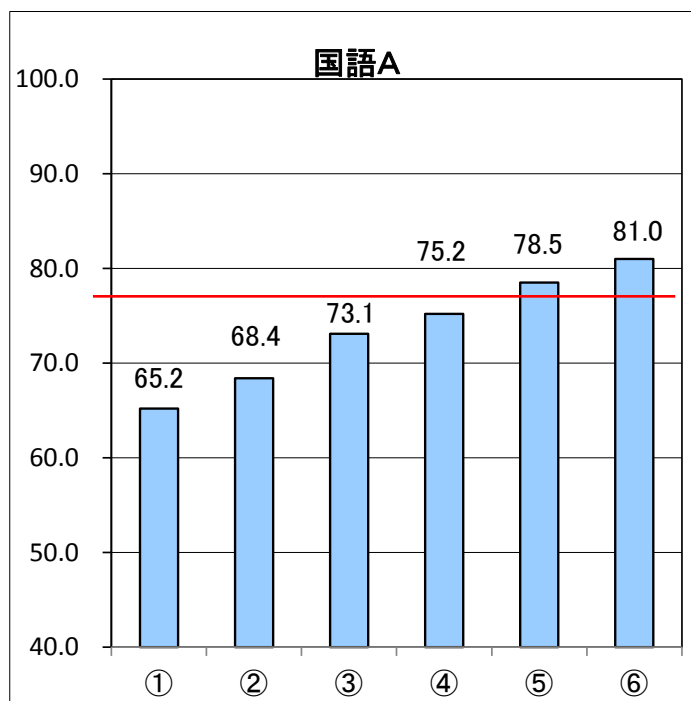


資料6-2 ゲーム利用と学力の相関（中学校）

質問 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。
（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	数学A	数学B
3時間以上 ①	261	11.4	10.3	65.2	56.8	45.1	33.8
2時間以上、3時間より少ない ②	250	10.0	9.9	68.4	62.9	52.4	38.4
1時間以上、2時間より少ない ③	390	16.2	15.5	73.1	67.6	58.6	43.2
30分以上、1時間より少ない ④	507	21.4	20.1	75.2	69.4	62.2	45.0
30分より少ない ⑤	633	24.3	25.1	78.5	73.6	65.6	48.7
全くしない ⑥	479	16.6	19.0	81.0	77.1	66.5	48.6
その他・無回答	3	0.1	0.1				
全国平均正答率				77.4	72.2	64.6	48.1

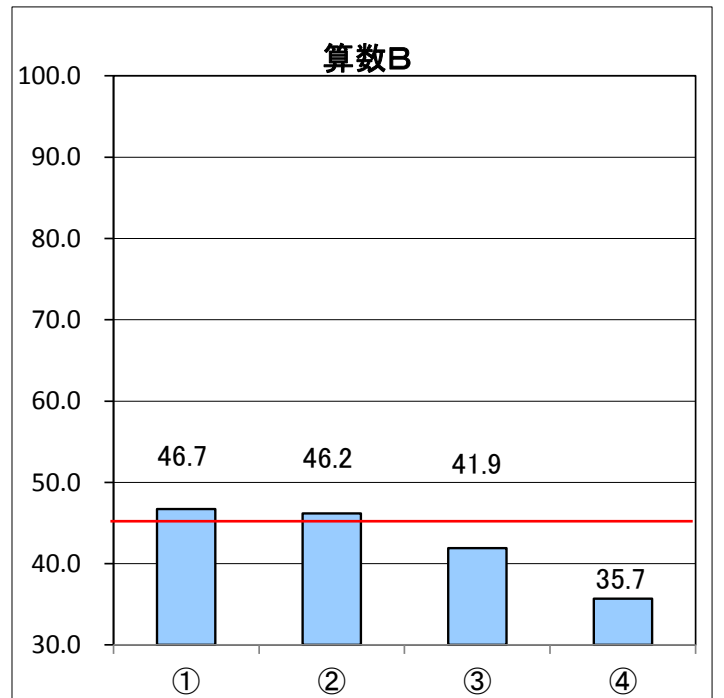
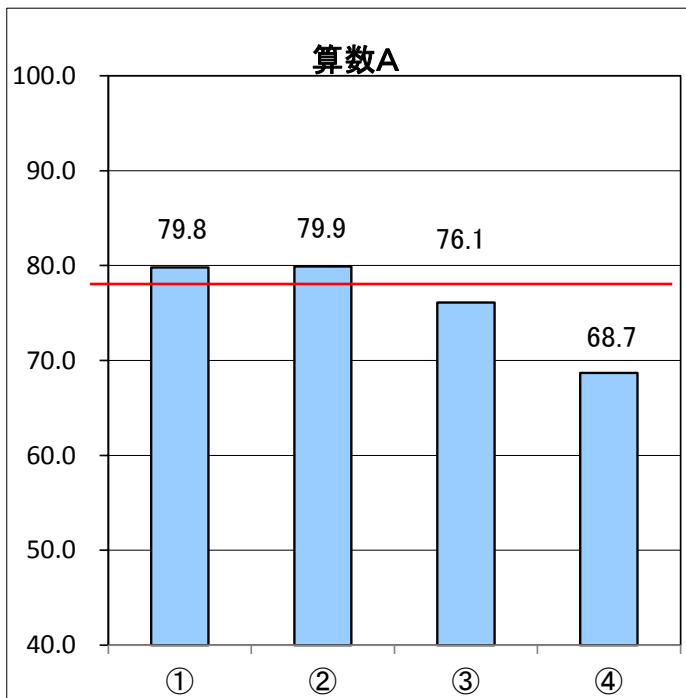
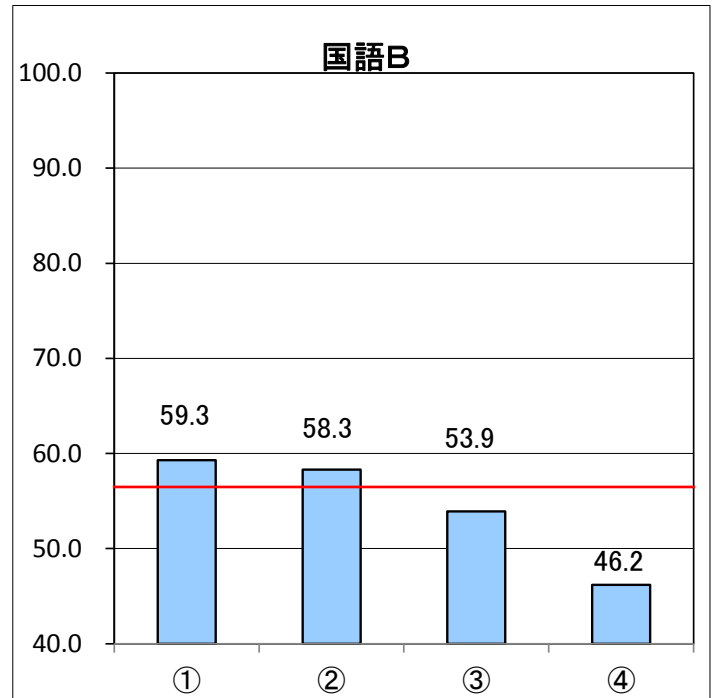
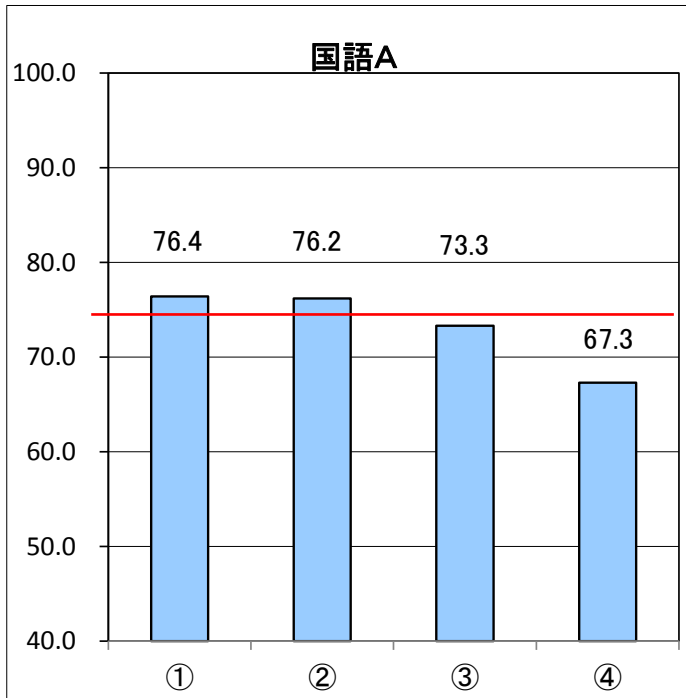


資料7-1 自尊感情と学力の相関（小学校）

質問 自分には、よいところがあると思いますか。

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる ①	832	38.6	33.2	76.4	59.3	79.8	46.7
どちらかといえば、当てはまる ②	958	39.3	38.3	76.2	58.3	79.9	46.2
どちらかといえば、当てはまらない ③	493	14.9	19.7	73.3	53.9	76.1	41.9
当てはまらない ④	217	7.0	8.7	67.3	46.2	68.7	35.7
その他・無回答	2	0.0	0.1				
全国平均正答率				74.8	57.5	78.6	45.9

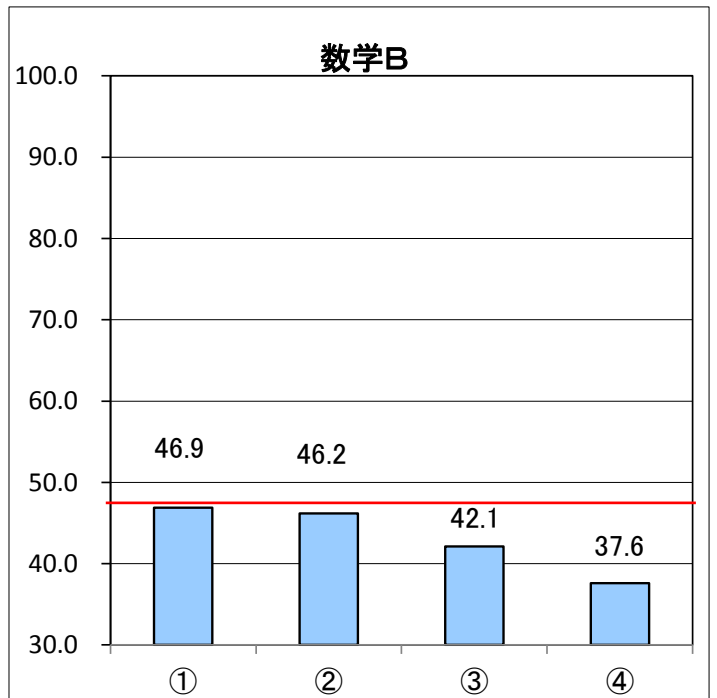
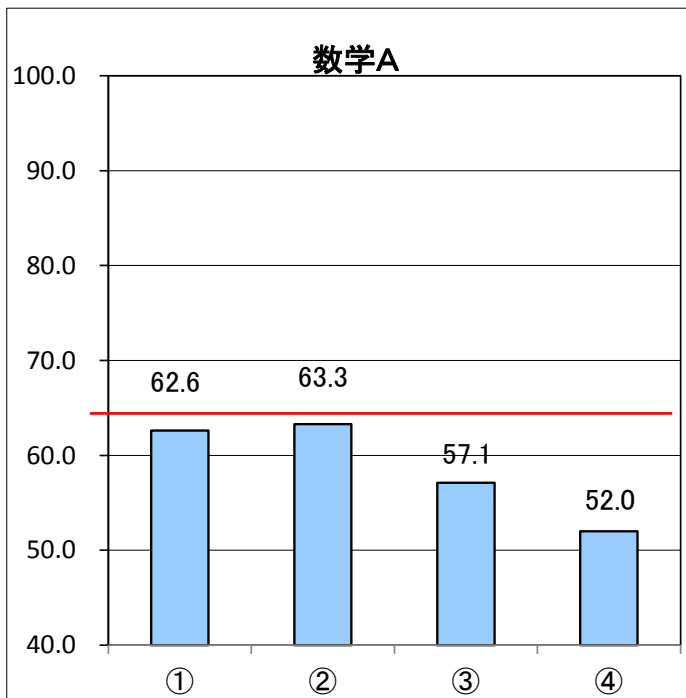
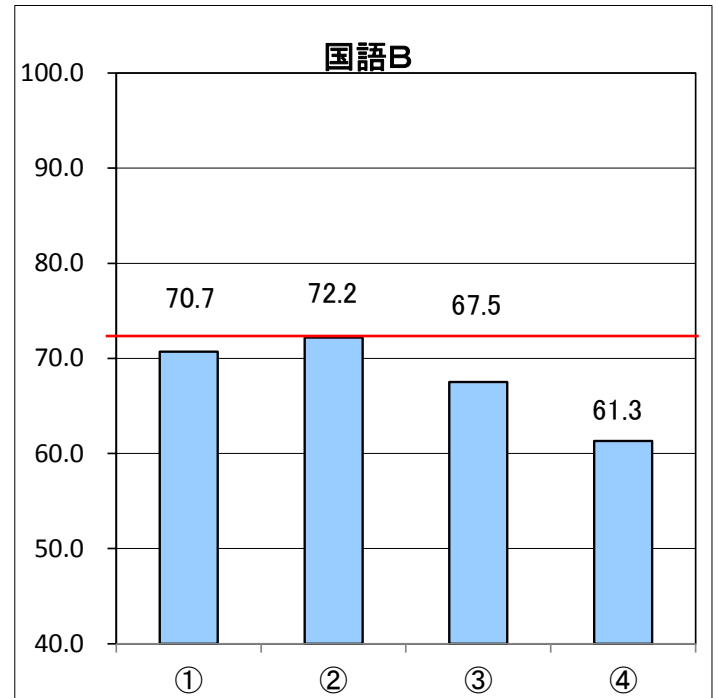
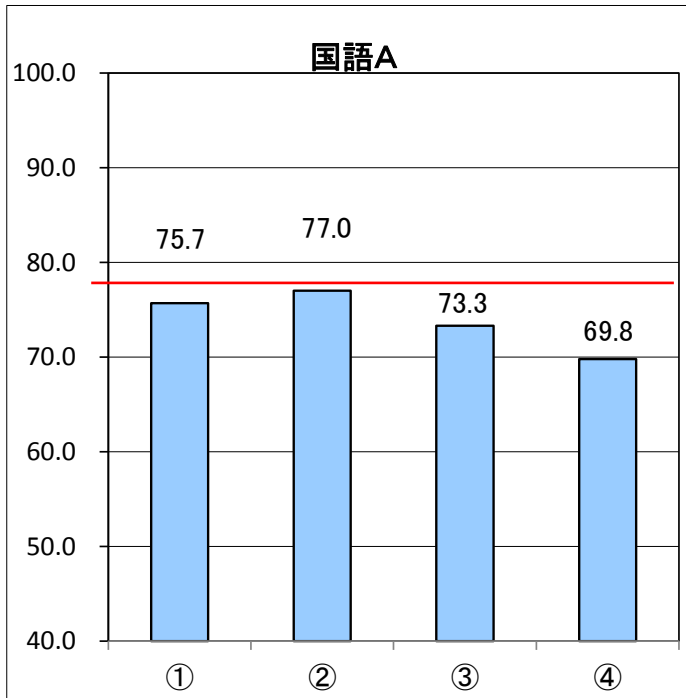


資料7-2 自尊感情と学力の相関（中学校）

質問 自分には、よいところがあると思いますか。

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる ①	551	28.2	21.8	75.7	70.7	62.6	46.9
どちらかといえば、当てはまる ②	1,101	42.5	43.6	77.0	72.2	63.3	46.2
どちらかといえば、当てはまらない ③	620	20.5	24.6	73.3	67.5	57.1	42.1
当てはまらない ④	244	8.6	9.7	69.8	61.3	52.0	37.6
その他・無回答	7	0.2	0.3				
全国平均正答率				77.4	72.2	64.6	48.1

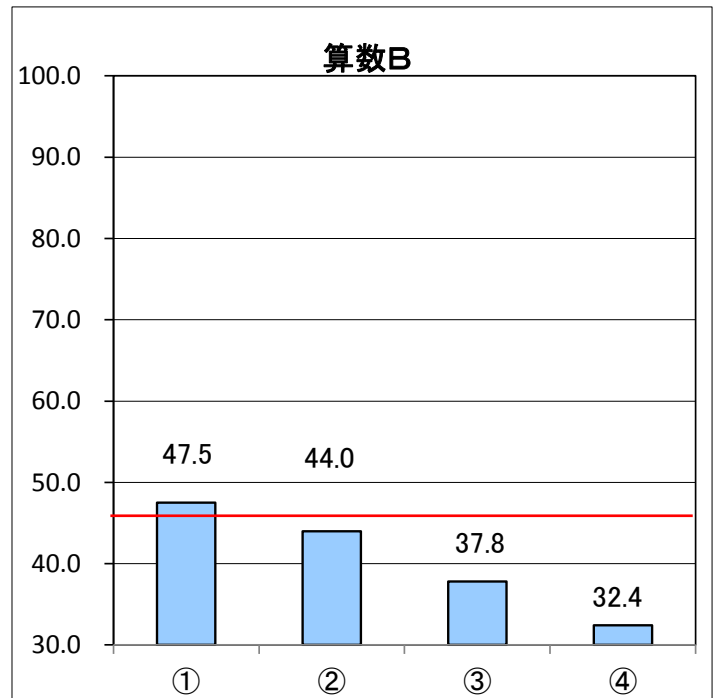
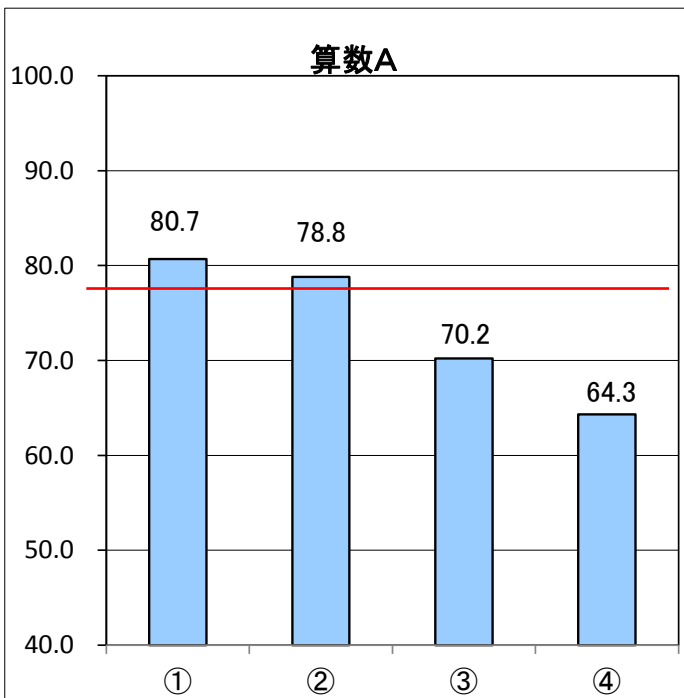
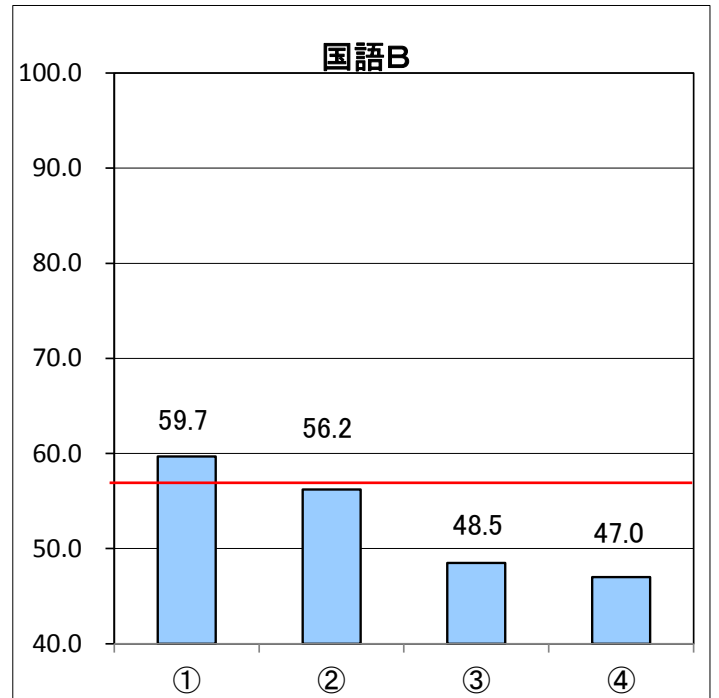
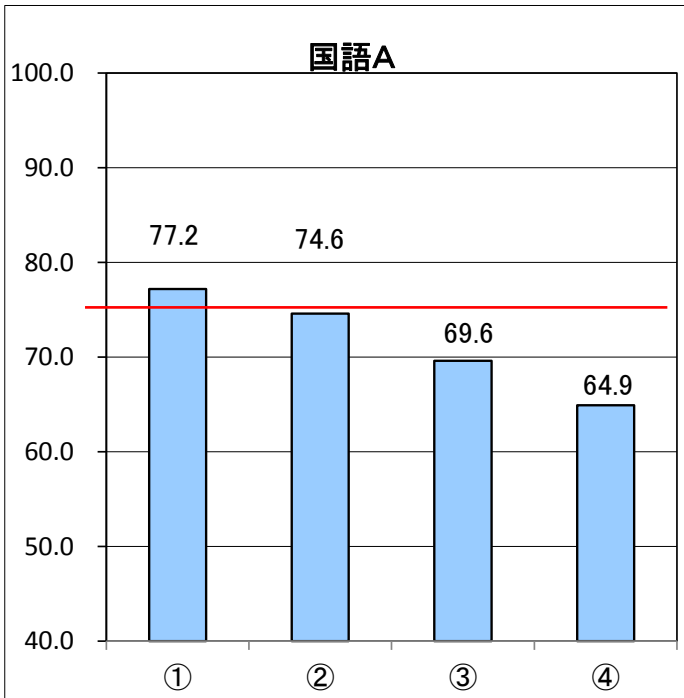


資料 8 - 1 楽しい学校と学力の相関（小学校）

質問 学校に行くのは楽しいと思いますか。

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	算数A	算数B
① 思う	1,333	55.4	53.3	77.2	59.7	80.7	47.5
② どちらかといえば、思う	773	30.9	30.9	74.6	56.2	78.8	44.0
③ どちらかといえば、思わない	272	9.2	10.9	69.6	48.5	70.2	37.8
④ 思わない	121	4.3	4.8	64.9	47.0	64.3	32.4
その他・無回答	3	0.0	0.1				
全国平均正答率				74.8	57.5	78.6	45.9

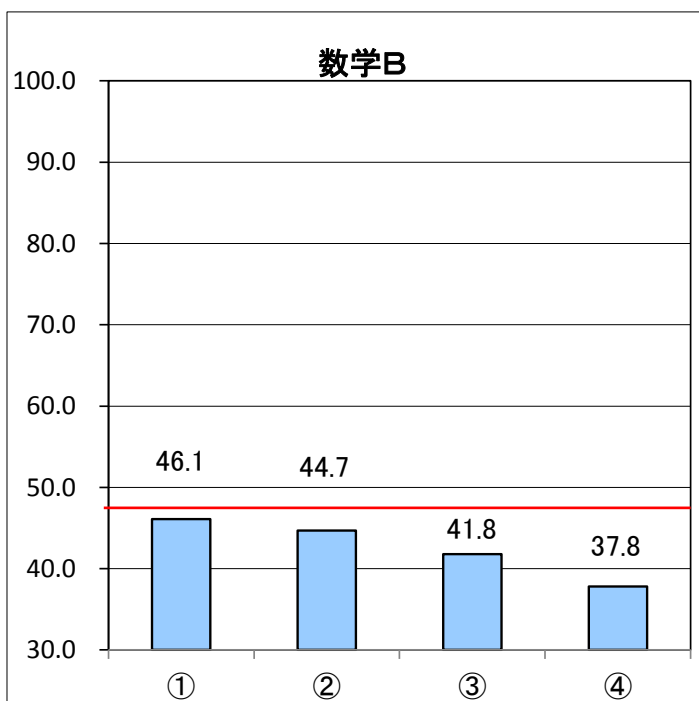
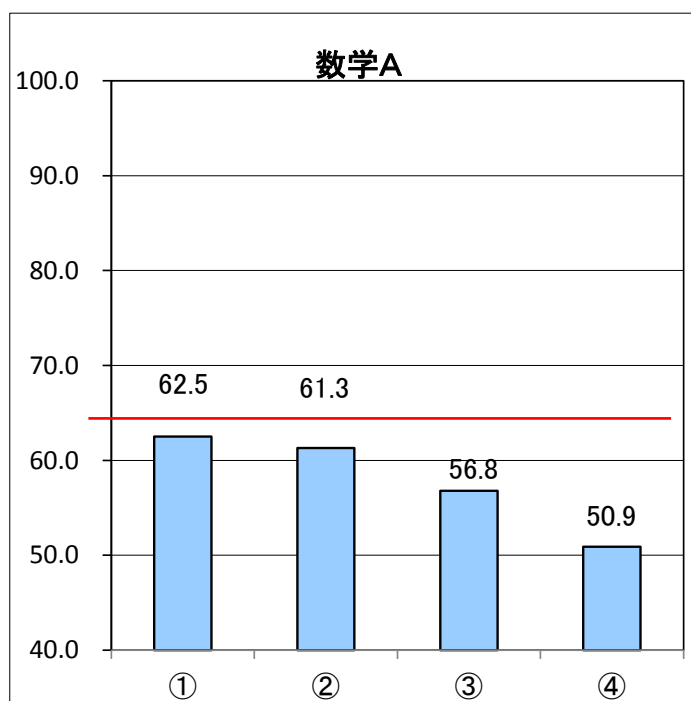
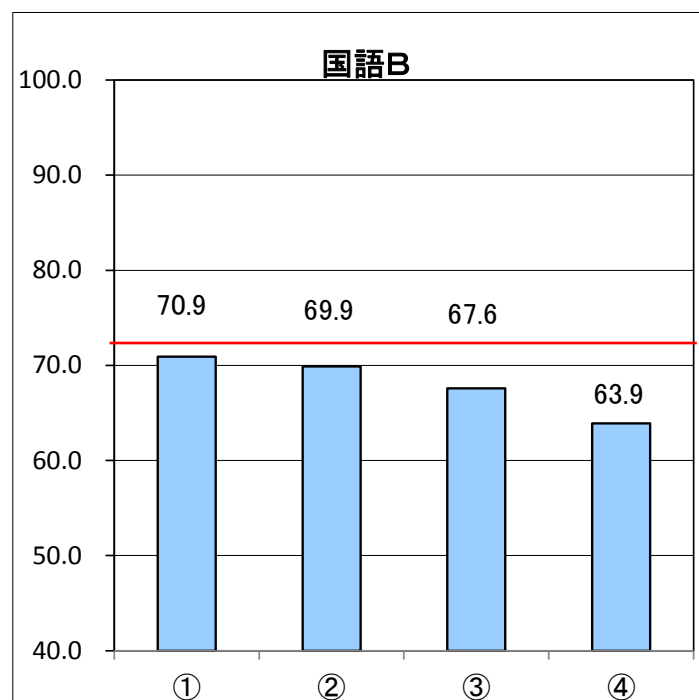
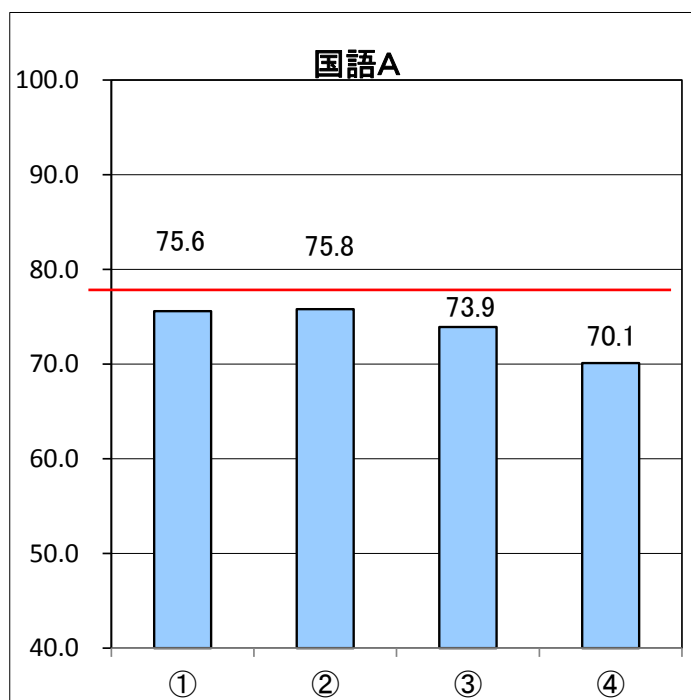


資料 8 - 2 楽しい学校と学力の相関（中学校）

質問 学校に行くのは楽しいと思いますか。

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン（児童生徒数）人（左記以外）%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	数学A	数学B
① ① と思う	1,165	47.3	46.2	75.6	70.9	62.5	46.1
② どちらかといえば、と思う	853	33.6	33.8	75.8	69.9	61.3	44.7
③ どちらかといえば、と思わない	340	12.2	13.5	73.9	67.6	56.8	41.8
④ と思わない	162	6.9	6.4	70.1	63.9	50.9	37.8
その他・無回答	3	0.1	0.1				
全国平均正答率				77.4	72.2	64.6	48.1

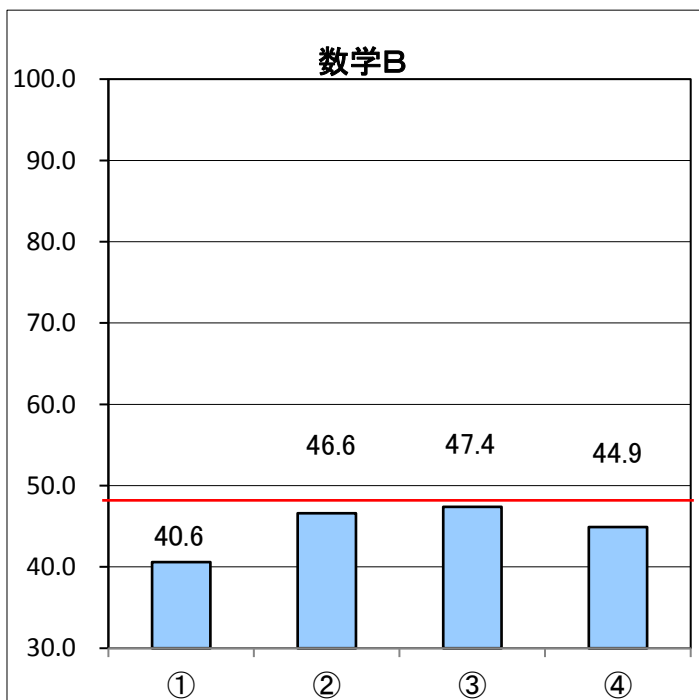
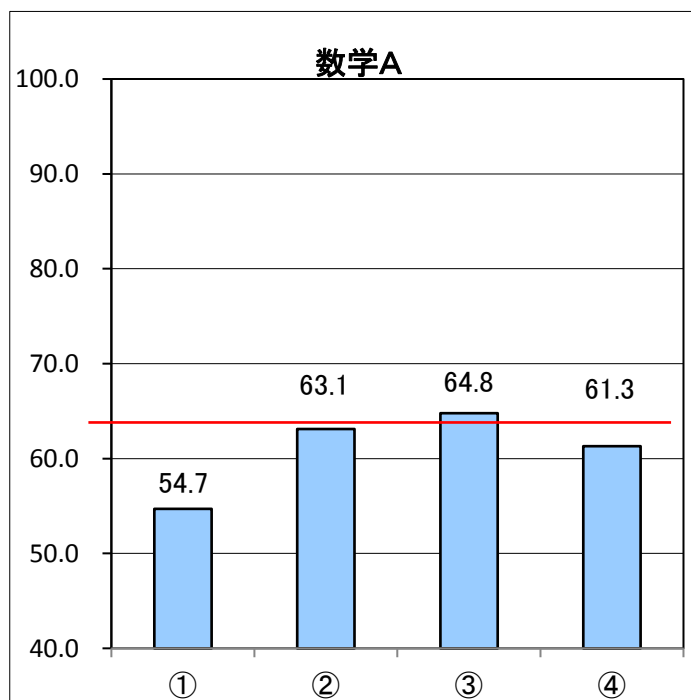
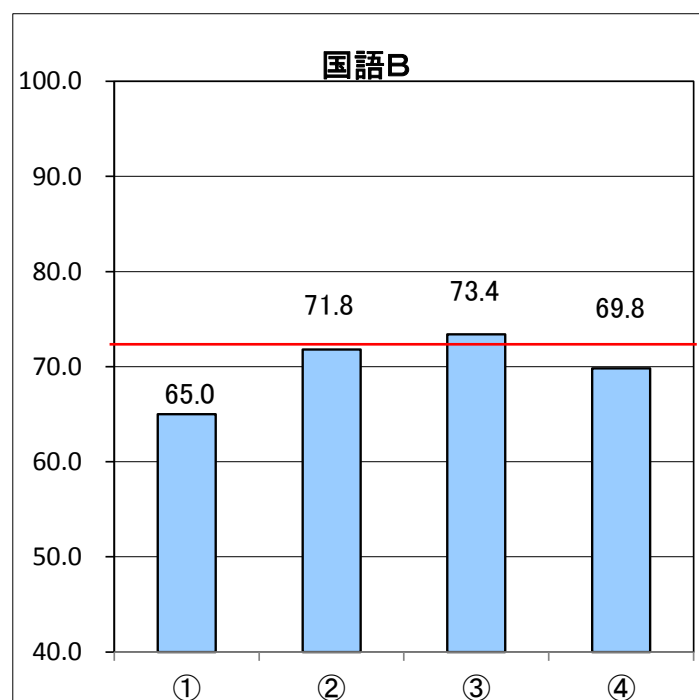
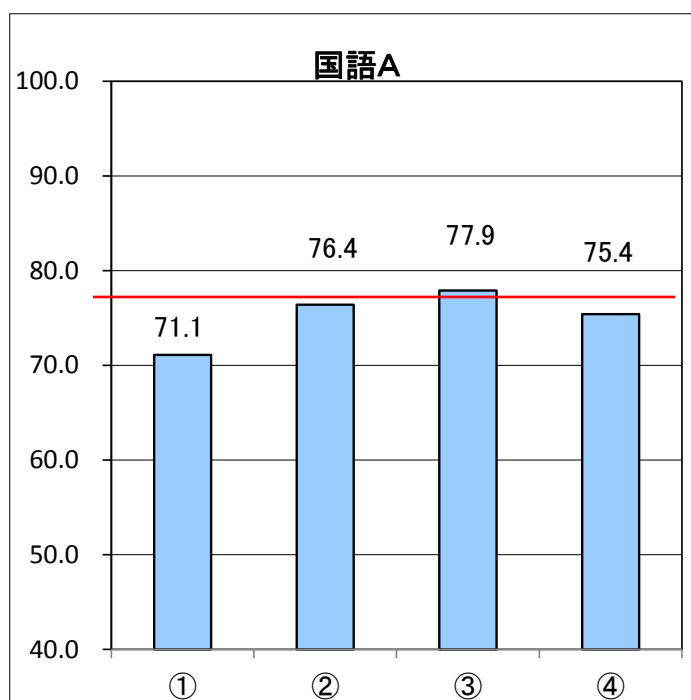


資料9 部活動と学力の相関（中学校）

質問 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか。

網掛は全国平均超 グラフ内の線は全国平均ライン (児童生徒数)人 (左記以外)%

選択肢	人数	国割合	市割合	国語A	国語B	数学A	数学B
3時間以上 ①	254	11.6	10.1	71.1	65.0	54.7	40.6
2時間以上、3時間より少ない ②	867	44.0	34.4	76.4	71.8	63.1	46.6
1時間以上、2時間より少ない ③	891	28.4	35.3	77.9	73.4	64.8	47.4
30分以上、1時間より少ない ④	84	3.2	3.3	75.4	69.8	61.3	44.9
30分より少ない ⑤	39	0.9	1.5	70.6	63.8	53.7	40.9
全くしない ⑥	380	11.5	15.1	68.6	59.9	49.3	36.0
その他・無回答	8	0.3	0.3				
全国平均正答率				77.4	72.2	64.6	48.1



学校名	小学校
-----	-----

1 全国学力・学習状況調査(小6)の分析		全国正答率との差
国語A	「言語事項」において、漢字を正しく書くこと、ローマ字を正しく読んだり書いたりすることに課題が見られる。	-6
国語B	「書くこと」において、目的や意図に応じてグラフや表を基に自分の考えを書くこと、グラフを基に分かったことを的確に書くことに課題が見られる。	-7.4
算数A	「量と測定」において、単位量あたりの大きさの求め方の理解、説明の記述、「図形」において、直方体における面と面の位置関係、図形の構成に関する内容に課題が見られる。	-7.8
算数B	「量と測定」において、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する問題、「数と計算」において理由を記述する問題に課題が見られる。	-5.6
学習状況	話し合う活動、学習をふり返る活動、ノートにめあてとまとめを書く活動をよくしている。家で、予習復習している子が少ない。図書室にほとんど行かない子が3割ほどいる。授業以外での勉強時間 0分～30分が、全体の1/4いる。	

2 福岡県学力調査(小5)の分析		県正答率との差
国語	「話すこと・聞くこと」において、話し手の発言を受け止め、話し合いの方向を整理し、計画的に話し合うこと、「言語事項」において漢字を正しく書くこと、文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られる。	-4.5
算数	「数と計算」において、整数と小数の計算(1/100の位までの小数+1/10の位までの小数、小数×小数の乗法の式にあった問題場面を選ぶ)、「量と測定」において、面積に関して説明する問題に課題が見られる。	-3.3
学習状況	家庭学習で、自学をノート見開き1ページ毎日行っている。(いろいろな教科で、学習の復習を兼ねて)	

3 今後の具体的な取組計画(小5に対する)		実施状況チェック
11月	朝の活動や、単元のまとめの時間に「フォローアップワークシート」を1問ずつする。答え合わせ、説明までする。授業では、各教科で考えを書かせる。(図や絵から考えられることなど)	
12月	朝の活動や、単元のまとめの時間に「フォローアップワークシート」を1問ずつする。答え合わせ、説明までする。復習プリントを作成し、7学年も入って少人数に分かれて学習をする。授業では、各教科で考えを書かせる。(図や絵から考えられることなど)	
1月	朝の活動や、単元のまとめの時間に「アシストシート」を1問ずつする。答え合わせ、説明までする。授業では、各教科で考えを書かせる。(図や絵から考えられることなど)	
2月	朝の活動や、単元のまとめの時間に「アシストシート」を1問ずつする。答え合わせ、説明までする。授業では、各教科で考えを書かせる。(図や絵から考えられることなど)	
3月	朝の活動や、単元のまとめの時間に「アシストシート」を1問ずつする。答え合わせ、説明までする。復習プリントを作成し、7学年も入って少人数に分かれて学習をする。授業では、各教科で考えを書かせる。(図や絵から考えられることなど)	

4 次年度(現小5)の目標値(本年度の全国平均正答率との差を何ポイント上昇させるか)

国語A	国語B	算数A	算数B
2	2	2	2